

奈良県民のくらしに関する調査

(平成21年10月1日実施)

調査結果 速報（概要）

奈良県民のくらし全般を対象に、奈良県が初めて独自に実施した調査の結果（速報）を取りまとめました。

目 次

I 調査の概要

II 調査結果の概要

1 生活行動

- | | |
|-------------|-----|
| ① 家事の状況 | P 1 |
| ② 配偶者の就業の状況 | P 2 |
| ③ 買い物行動の状況 | P 4 |

2 家 計

- | | |
|------------------|------|
| ① 支出、収入、貯蓄、借入の状況 | P 10 |
| ② この1年間の家計に対する実感 | P 11 |

3 つながり

- | | |
|--------------------|------|
| ① 家族一緒に過ごす機会の状況 | P 12 |
| ② 親戚づきあい、近所づきあいの状況 | P 13 |
| ③ 地域団体加入の状況 | P 15 |
| ④ 県外からの転入世帯の状況 | P 16 |

4 ライフステージ別の状況

- | | |
|--------|------|
| ① 生活行動 | P 18 |
| ② 家計 | P 19 |
| ③ つながり | P 21 |

※詳しくは、別冊の詳細版をご覧ください。

調査の概要

- 1 調査対象 県内全市町村を対象に、一般世帯の中から**約1万世帯**を無作為抽出
- 2 調査方法 調査員が各世帯を訪問し、留置により調査
- 3 調査期日 **平成21年10月1日**
- 4 回収結果 回収率：**88.7%**

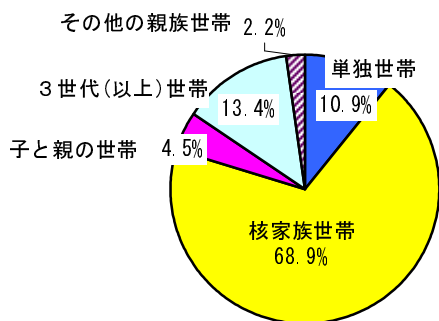
5 調査項目の大系

<p style="text-align: center; background-color: #cccccc; margin: 0;">基本属性</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 世帯員数 ② 続柄、性別、年齢、就業・就学 など ③ 住居 	<p style="text-align: center; background-color: #cccccc; margin: 0;">生活行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 家事、子育て、介護・看護 ② 配偶者の就業 ③ 買い物行動 ④ 余暇・自由時間 	<p style="text-align: center; background-color: #cccccc; margin: 0;">家計</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 支出 ② 収入 ③ 貯蓄 ④ 借入 	<p style="text-align: center; background-color: #cccccc; margin: 0;">つながり</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 家族で過ごす機会 ② 親戚づきあい ③ 近所づきあい ④ 地域団体加入、地域活動参加
<p>⑤ この1年間の家計に対する実感</p>			
<p>⑤ 県外からの転入世帯の状況</p>			

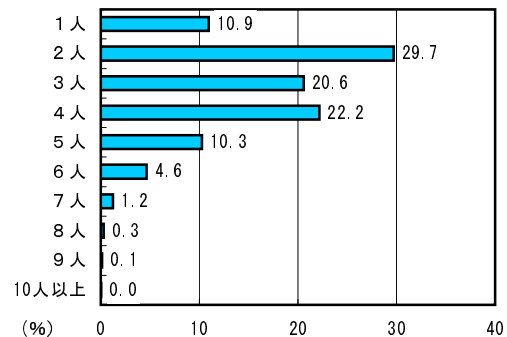
6 標本の構成

(1) 世帯の属性 (総数 9,127 世帯)

① 世帯類型別

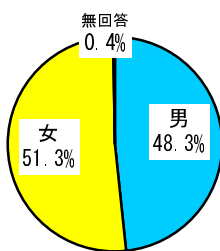


② 世帯構成人数別

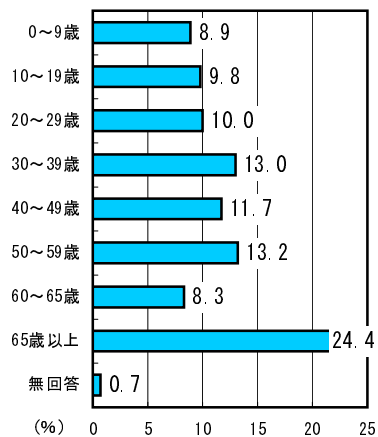


(2) 世帯員の属性 (総数 28,502 人)

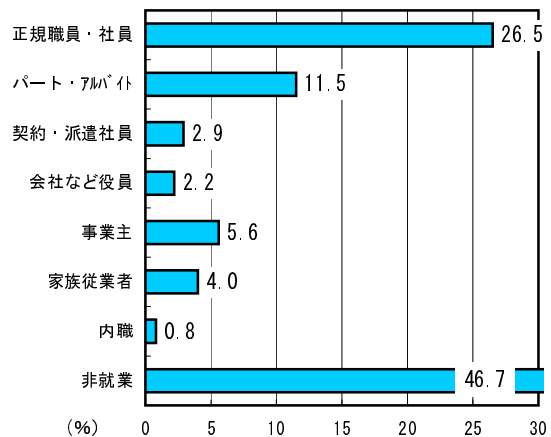
① 性別



② 年齢別



③ 就業形態等別 (n=23,857人)



1 生活行動

① 家事の状況

調査対象：2人以上の世帯

■家事に関して、中心となって関わっている者以外に関わっている世帯員のいる割合は、全体で5割(51.7%)。3世代世帯でその割合が高い(7割弱)一方、高齢夫婦世帯や1人親と19歳以下の子の世帯では4割未満と低い。

■家事に関わっている割合は、配偶者、子の配偶者、父母の順で高い一方、世帯主が家事に関わっている割合は4割(43.4%)と低調。

- ・2人以上の世帯のうち、配偶者が中心となって家事をしている割合は8割超(84.2%)。
- ・中心者以外に関わっている世帯員のいる割合は、全体で5割(51.7%)。
- 世帯類型別では、3世代世帯でその割合が最も高い(67.6%)一方、高齢夫婦世帯や1人親と19歳以下の子の世帯では4割未満と低い。
- ・家事に関わっている割合は、配偶者、子の配偶者、父母の順で高い。一方、世帯主の家事への関わりの程度は、「中心者として(8.7%)」、「かなり関与(13.8%)」、「少しだけ関与(20.9%)」あわせても4割(43.4%)と低調。

図1 中心となって家事をしている世帯員

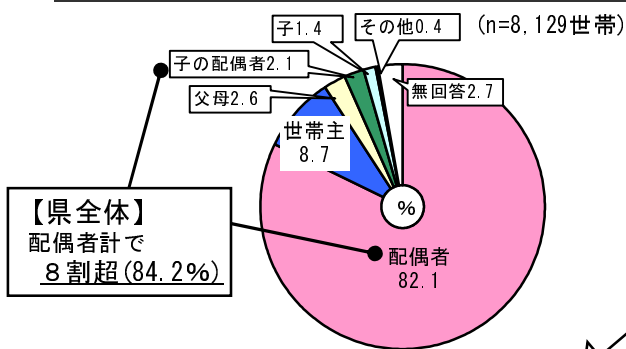


図2 中心者以外に関わっている世帯員の有無

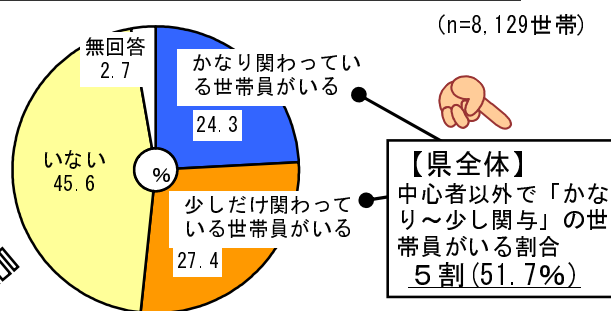


図2-2 【世帯類型別】

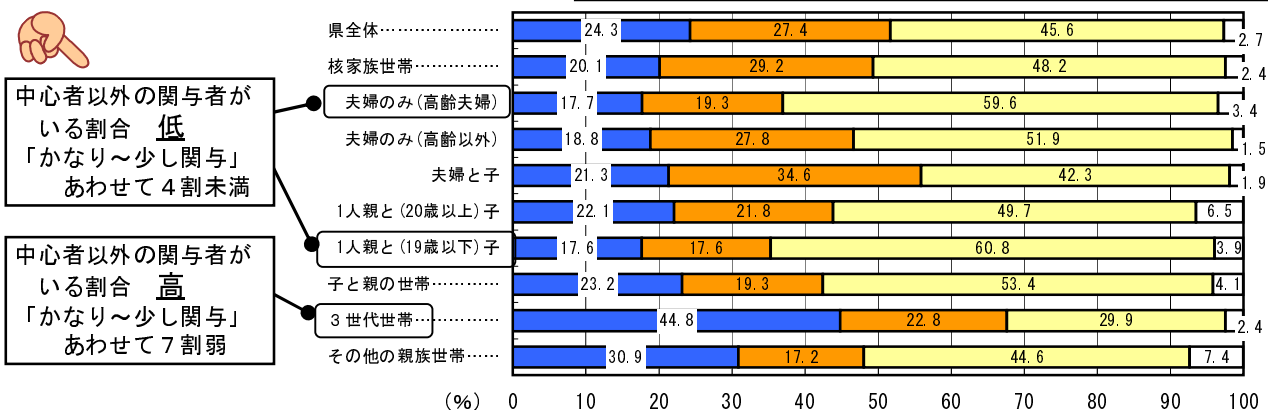
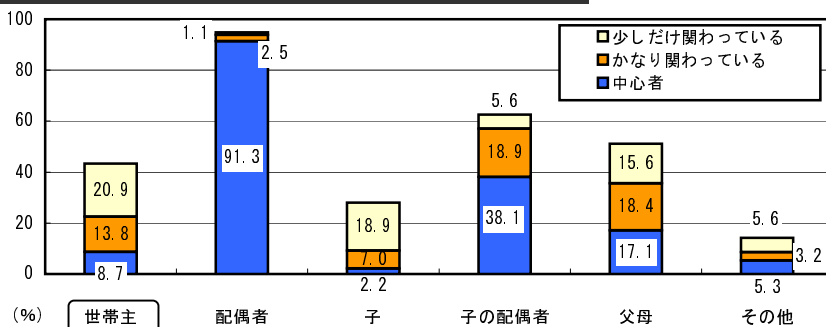


図3 各世帯員の家事への関わりの程度

(n=8,129世帯)

家事への関わりの程度は、
①配偶者に次いで
②子の配偶者、③父母の順

【世帯主の関わり】
中心者として 8.7%
かなり関与 13.8%
少し関与 20.9% 計43.4%



② 配偶者の就業の状況

調査対象：配偶者のいる世帯

- 配偶者が働いている割合は全体で4割超(42.3%)。40歳代をピークに上昇し、50歳代以降は低下。
- 配偶者の就業形態は、パート・アルバイトが5割弱(46.5%)と最も多く、正規職員・社員は2割未満(18.4%)。

・ 配偶者が就業している割合は、有配偶者世帯全体の4割超(42.3%)。また、年代別にみると、40歳代をピーク(63.9%)として年代が進むにつれ上昇し、50歳代以降は低下。
 ・ 配偶者の就業形態をみると、パート・アルバイトが5割弱(46.5%)と最も多く、次いで正規職員・社員(18.4%)、家族従業者(16.8%)の順。

(1) 配偶者の就業の有無と就業形態

図1 配偶者の年齢階級別 配偶者の就業有無の状況 (n=7,311人)

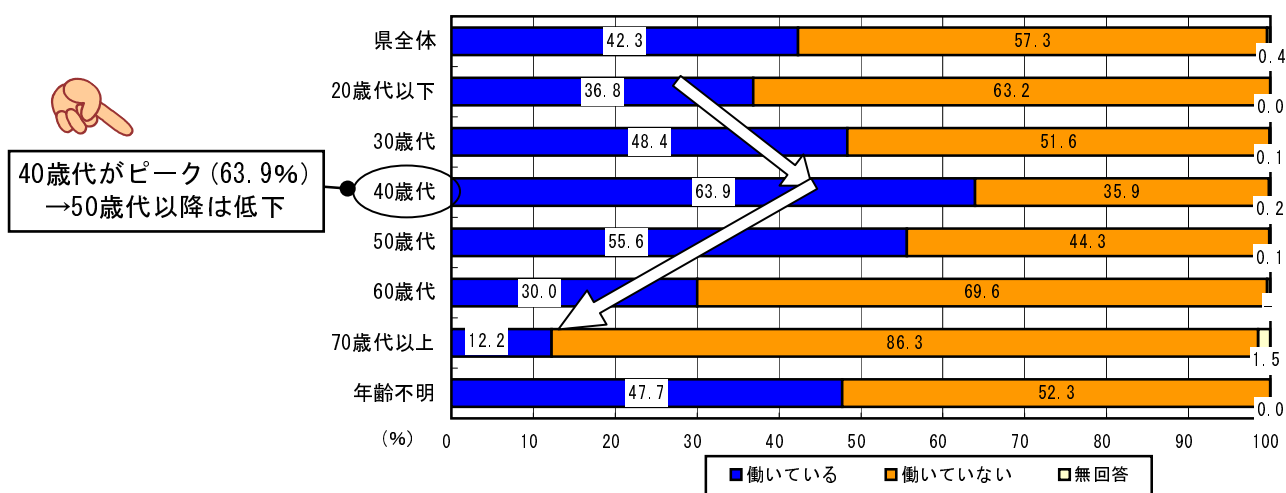
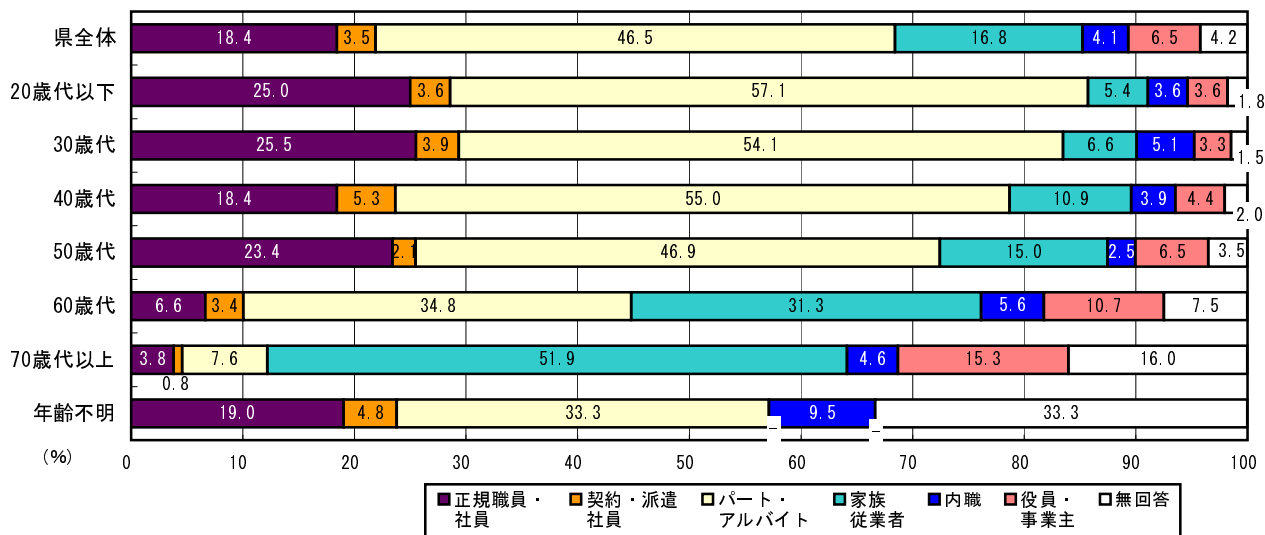


図2 配偶者の年齢階級別 働いている配偶者の就業形態 (n=3,094人)



■ 配偶者が働いている理由のうち「生活維持・ローン返済」「将来のための貯蓄」は、ともに20～40歳代で割合が高く、50歳代以降は低下の傾向。

「家族の理解があるから」を選択した割合は若年代ほど高い傾向だが、最も高い20歳代以下でも3割弱(26.8%)と低調。

■ 配偶者が働いていない理由のうち「家事・育児等で時間的余裕がない」を選択した割合は、30歳代以下で約7割、40歳代で約4割(38.9%)。「条件に合う仕事がないから」を選択した割合は、40歳代で約4割(38.9%)となり、働く意思があるのに働ける状況(環境)にない配偶者の存在を示す結果。

・ 配偶者が働いている理由で最も多いのは「生活維持・ローン返済」(50.3%)、次いで「将来のための貯蓄」(27.2%)だが、いずれも高年代ほど低下の傾向。

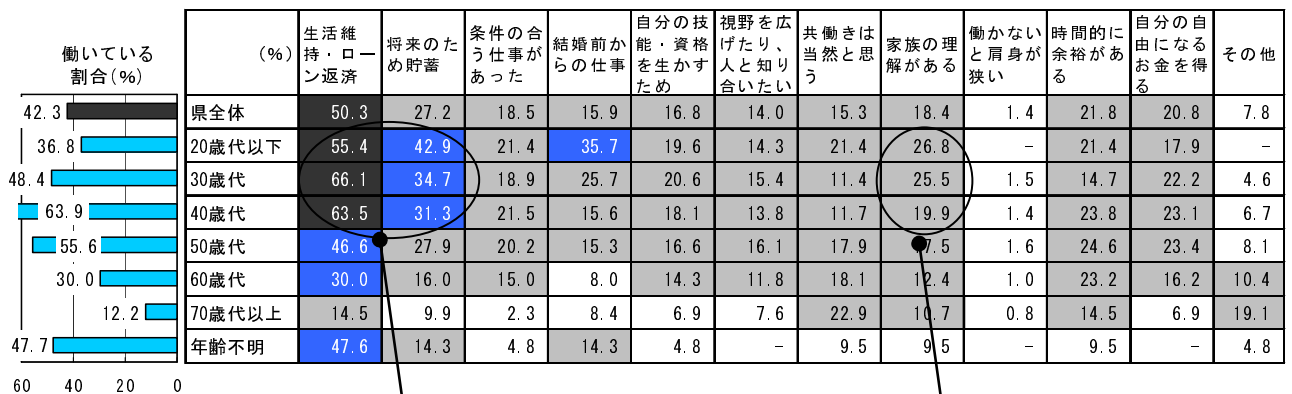
「家族の理解があるから」も2割弱(18.4%)が選択したが、若年代ほど高い傾向。

・ 配偶者が働いていない理由で最も多いのは「健康や体力面」(24.4%)、次いで「経済的に困っていない」(23.6%)。

年代別にみると、30歳代以下の約7割、40歳代の約4割(38.9%)が「家事・育児等で時間的余裕がない」を選択し、40歳代の38.9%が「条件に合う仕事がないから」を選択。「健康や体力面」は高年代ほど高くなる傾向。

(2) 配偶者が働いている理由、働いていない理由

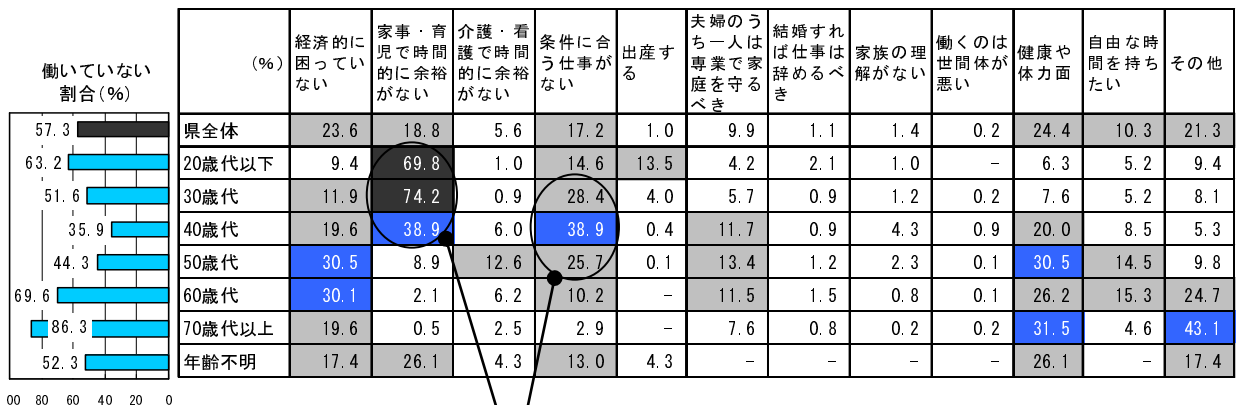
図3 配偶者の年齢階級別 配偶者が働いている理由 (複数回答) (n=3,094人)



20～40歳代 「生活維持・ローン返済」、
「将来のための貯蓄」ともに高

「家族の理解」は、若年代ほど高いが、
20歳代以下でも3割弱(26.8%)と低調

図4 配偶者の年齢階級別 配偶者が働いていない理由 (複数回答) (n=4,188人)



20～40歳代 家事・育児等家庭の事情

30～50歳代 条件に合う仕事がない

働く意思があるのに、働ける状況(環境)
にないことをうかがわせる

③ 買い物行動の状況

(1) 普段の買い物によく利用する交通手段の状況

■ 普段の買い物によく利用する交通手段は、自動車が最も多く全体の6割超(62.8%)。片道時間は、全体で平均15.5分。

■ 高齢者単独世帯は、他の世帯類型に比べ徒歩と電車・バスの利用割合が高く、自動車利用が最も低いため、片道時間も平均19.3分と最も時間がかかっている。そのほかの世帯では自動車が5割程度以上を占め、片道時間は14~17分程度。

■ 片道時間を市郡別にみると、香芝市、大和高田市、橿原市などが12分以内である一方、吉野郡と山辺・宇陀郡は30分以上となっており、地域差が顕著。

・ 普段の買い物によく利用する交通手段は、自動車が最も多く全体の6割超(62.8%)。次いで自転車・バイク(18.5%)、徒歩(11.7%)、電車・バス(3.0%)の順。
 ・ 普段の買い物での片道平均時間は、全体で15.5分。交通手段別では、自転車・バイクが11.2分と最も短く、以下、徒歩12.1分、自動車16.8分、電車・バス28.6分の順。
 ・ 世帯類型別では、高齢者単独世帯で徒歩(28.7%)と電車・バス(11.9%)が最も高く、自動車が最も低い(26.1%)ため、片道時間も平均19.3分と最も長い。その他の世帯では自動車が5割程度以上を占めており、片道時間は14~17分程度。
 ・ 片道時間を市郡別にみると、香芝市(11.8分)、大和高田市(12.0分)、橿原市(12.0分)などが12分以内である一方、吉野郡(31.6分)と山辺・宇陀郡(31.5分)は30分以上。

図1 普段の買い物で主に利用する交通手段

(n=9,127世帯)

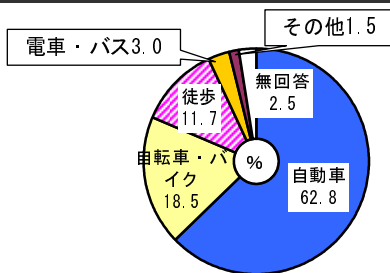


図2 交通手段別 普段の買い物での片道平均時間

(n=9,127世帯)

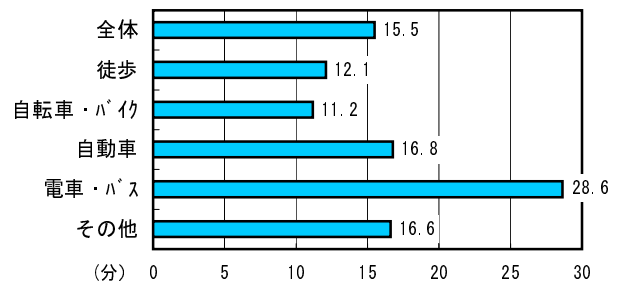
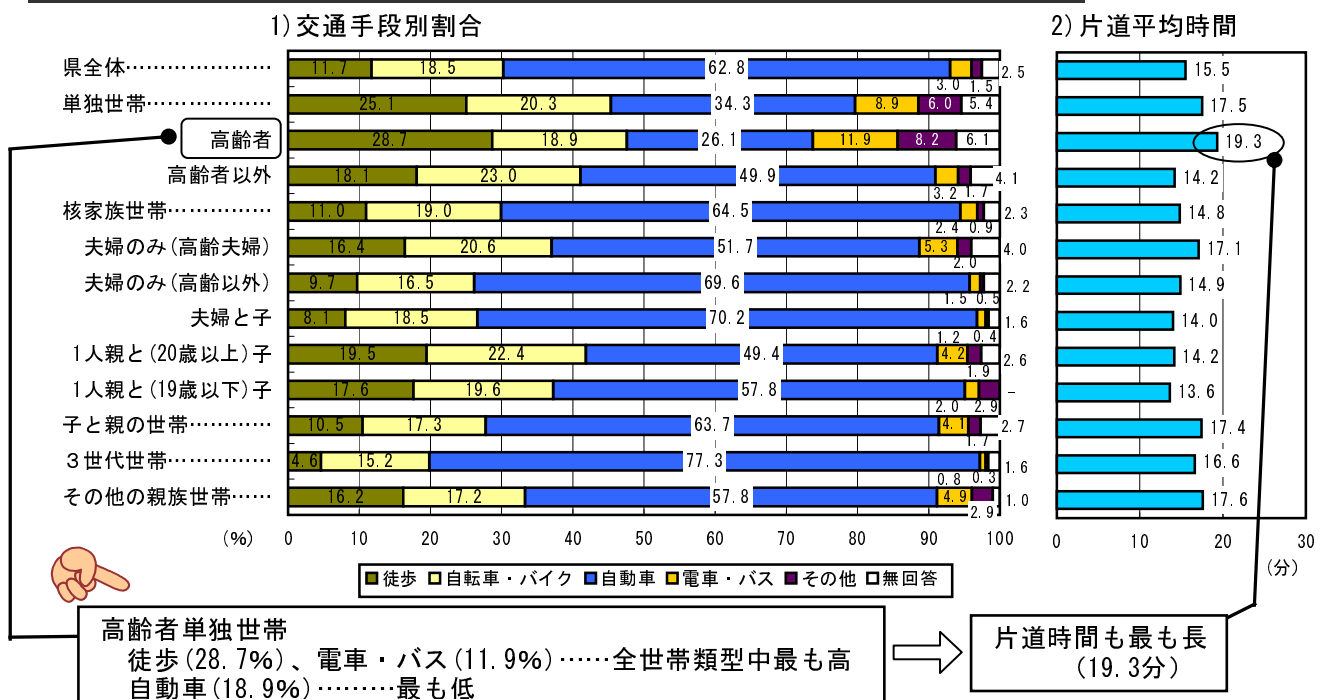


図3 世帯類型別 普段の買い物で主に利用する交通手段と片道平均時間

(n=9,127世帯)



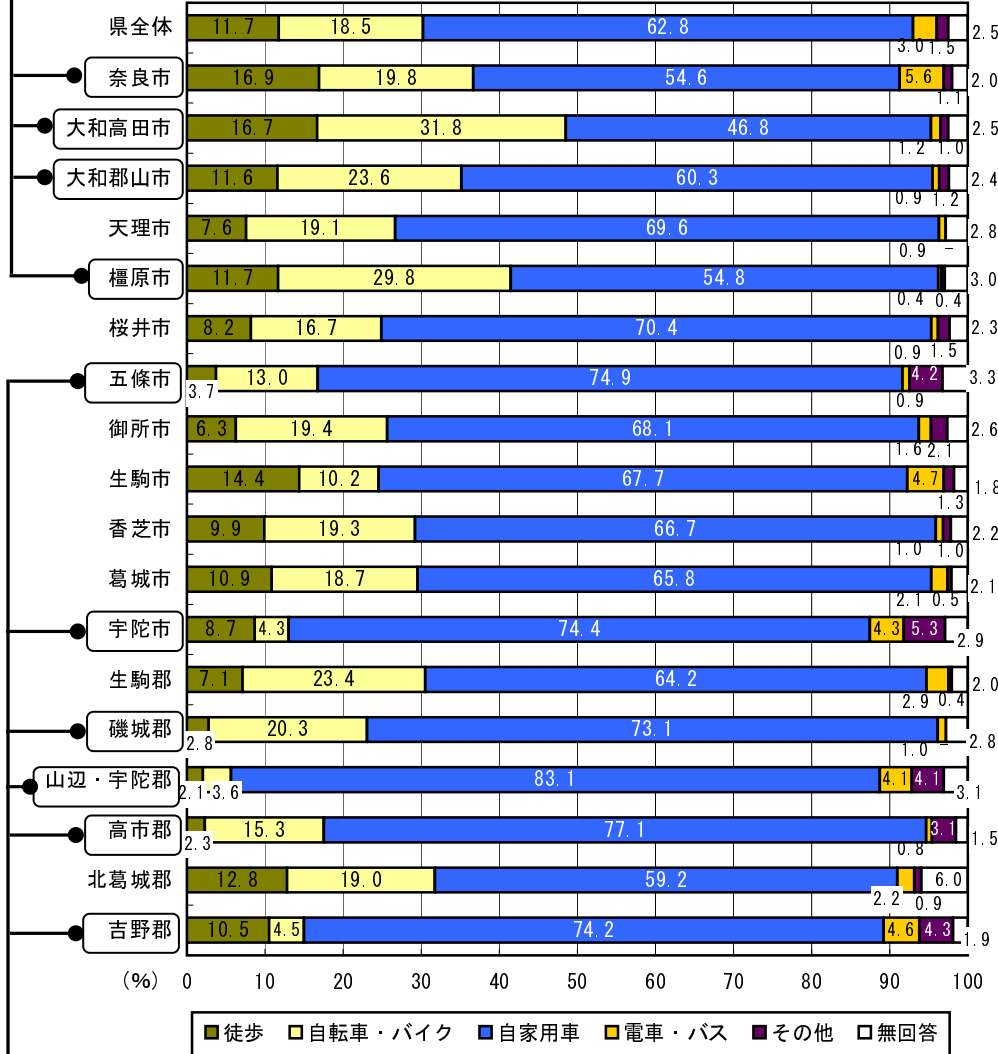
※ 地域別の状況

図4 市郡別 普段の買い物で主に利用する交通手段と片道平均時間

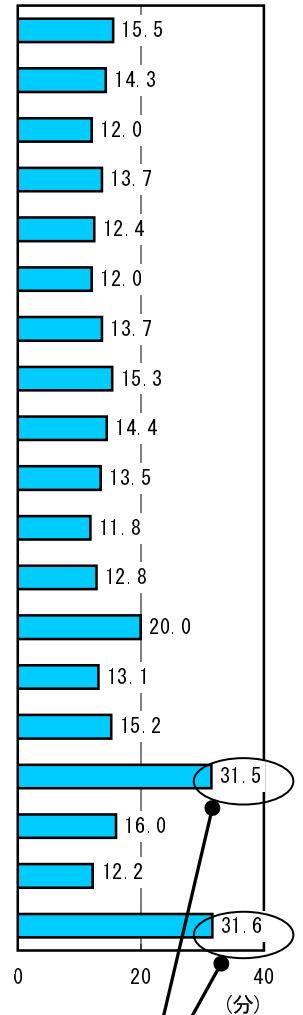
(n=9,127世帯(県全体))

1) 交通手段別割合

徒歩又は自転車・バイクの割合 高 ※県平均30.2%
大和高田市48.5%、橿原市41.5%、奈良市36.7%、大和郡山市35.2%



2) 片道平均時間



自動車の割合 高 ※県平均62.8%
山辺・宇陀郡83.1%、高市郡77.1%、五條市74.9%、
宇陀市74.4%、吉野郡74.2%、磯城郡73.1%

吉野郡と山辺・宇陀郡では、
片道時間が30分以上

(2) よく買い物する地域（品目別）

- いずれの品目も、3割程度の世帯が奈良市で最もよく買い物。次いで橿原市が1～2割程度。
- 橿原市は、外出着・おしゃれ着等の服飾、家具・インテリア、贈答品などで県内世帯の購買をよく吸引。特に中南部の世帯で顕著。
- 県外でよく買い物される品目は、外出着・おしゃれ着等の服飾、贈答品など。外食も1割(10.7%)の世帯が県外でよく行っている。

■ 調査15品目のいずれも、3割程度の世帯が奈良市で最もよく買い物。橿原市がこれに次ぎ1～2割程度。特に外出着・おしゃれ着等の服飾、家具・インテリア、スポーツ・レジャー用品、贈答品などは2割以上の世帯が橿原市で最もよく買い物。

■ 県外でよく買い物される品目は、外出着・おしゃれ着(20.6%の世帯が最もよく買い物すると回答)、靴・履物(同16.5%)、贈答品(同16.5%)など。外食も1割(10.7%)の世帯が県外でよく行っている。

■ 市郡別にみると、調査品目全般にわたり奈良市と橿原市在住の世帯は自市内で買い物している割合が高い。その他の市郡は、県内の他市(橿原市など)や県外で買い物。

特に、橿原市は、中・南部の世帯の購買を吸引していることがうかがえる。

図1 品目別 最近1年間で最もよく買い物した地域

※各品目とも、有効回答総数に占める割合

品目	地域	県内														県外	(通販等) その他	計		
		奈良市	大和高田市	大和郡山市	天理市	橿原市	桜井市	五條市	御所市	生駒市	香芝市	葛城市	宇陀市	生駒郡	磯城郡				北葛城郡	その他
日食用品・日用品	食料品	26.7	4.4	6.7	5.8	10.6	4.0	2.4	1.9	6.3	4.7	1.9	3.1	4.0	2.3	6.1	5.4	2.8	1.1	100.0
	日用品・金物・雑貨類	27.2	4.5	7.4	6.2	11.9	4.3	2.2	1.7	5.9	4.6	1.7	2.7	2.2	1.5	6.7	4.8	3.7	0.8	100.0
衣料・身の回り品	外出着・おしゃれ着	27.0	3.3	4.4	3.4	20.6	3.1	1.1	0.6	2.8	2.2	0.8	0.9	0.4	0.6	3.7	1.5	20.6	3.0	100.0
	肌着・下着類	28.8	4.1	6.1	4.9	14.5	4.6	2.0	1.3	4.0	3.3	1.2	1.7	1.1	1.2	6.5	2.7	8.4	3.8	100.0
	子供服・ベビー服	29.1	2.5	5.7	5.4	21.1	3.4	1.4	0.4	3.6	3.9	2.1	0.6	0.8	1.0	4.4	1.0	10.1	3.6	100.0
	服飾雑貨	29.9	3.1	5.2	3.8	20.5	3.0	1.5	0.7	3.4	2.3	0.8	1.0	0.6	0.4	4.2	1.5	14.5	3.5	100.0
	靴・履物	28.1	3.3	5.1	4.8	19.7	3.0	1.3	0.9	3.6	2.4	0.9	1.2	0.3	0.4	4.0	1.8	16.5	2.7	100.0
	医薬品	28.5	4.3	6.6	5.9	11.0	4.3	2.2	1.6	6.1	4.5	1.6	2.7	3.1	2.1	6.3	4.1	4.5	0.7	100.0
	化粧品	25.7	3.5	5.1	4.8	12.2	3.2	1.6	1.0	4.8	3.4	0.9	1.5	1.7	1.4	5.0	2.5	8.8	13.0	100.0
文化用品	家電製品	31.8	3.2	10.0	1.4	17.3	4.2	1.0	0.3	4.9	5.0	2.7	0.6	0.7	1.0	6.2	0.9	6.4	2.2	100.0
	家具・インテリア	33.0	2.4	7.9	2.1	21.2	3.5	0.7	0.4	2.3	3.5	1.2	0.6	0.3	0.2	3.3	0.7	11.9	5.0	100.0
	本・雑誌、CD、ビデオなど	29.1	3.2	6.9	5.0	14.1	4.4	1.0	1.5	5.0	5.2	1.5	1.9	2.2	0.9	4.6	1.8	7.4	4.3	100.0
	スポーツ・レジャー用品	35.5	3.7	5.7	3.1	23.3	2.4	0.9	0.4	2.8	3.3	0.6	0.6	0.4	0.7	2.6	0.8	10.8	2.6	100.0
贈答品	29.6	1.8	3.2	3.4	22.8	1.8	1.6	0.5	5.1	1.6	0.6	1.4	0.5	0.3	2.5	1.8	16.5	4.9	100.0	
外食	33.1	4.4	4.9	4.7	18.4	2.7	1.2	0.3	4.2	4.5	1.8	0.9	1.6	0.7	5.1	0.9	10.7	0.0	100.0	

※各品目の有効回答総数

品目	有効回答総数(世帯)	品目	有効回答総数(世帯)
食料品	8,830	医薬品	6,797
日用品・金物・雑貨類	8,133	化粧品	6,243
外出着・おしゃれ着	6,678	家電製品	6,363
肌着・下着類	7,116	家具・インテリア	3,968
子供服・ベビー服	2,728	本・雑誌、CD、ビデオなど	6,014
服飾雑貨	4,846	スポーツ・レジャー用品	3,990
靴・履物	6,245	贈答品	5,370
		外食	5,930

(3) よく買い物に利用する店舗形態（品目別）

■いずれの品目も、大型専門店・量販店をよく利用。ショッピングセンター・モールは外出着・おしゃれ着等の服飾、百貨店は外出着・おしゃれ着、贈答品の買い物によく利用。

■商店街などの一般小売店は、全般的には最も利用すると回答した割合は低い（1割未満）ものの、高年代ほどやや高くなる傾向。

・調査15品目のいずれも、大型専門店・量販店をよく利用。特に家電製品は8割弱(77.4%)、家具・インテリア用品は6割超(64.3%)の世帯が最もよく利用すると回答。

・ショッピングセンター・モールは、外出着・おしゃれ着などの服飾の買い物によく利用され（2～3割超の世帯が最もよく利用すると回答）、百貨店は外出着・おしゃれ着（同29.1%）、贈答品（同55.6%）でよく利用。総合・食品スーパーは、食料品・日用品（同2～4割弱）でよく利用。

■商店街などの一般小売店は、どの品目も、最も利用すると回答した世帯は1割未満であるものの、世帯主の年代別にみると、高年代ほどやや高くなる傾向。百貨店も高年代ほど高くなる一方、ショッピングセンター・モールは高年代ほど低くなる傾向。

図3 品目別 最近1年間で最もよく買い物した店舗形態

※各品目とも、有効回答総数に占める割合

品目	店舗形態・販売形態													計
	一般小売店	商店街以外の一般小売店	大型専門店・量販店等	百貨店	駅前等の総合・食品スーパー	総合・食品スーパー	国道沿い等のセンター・モール	ショッピングセンター	コンスタエ	宅配サービス	生協等の販売	通信・カタログ販売	インターネット販売	
日食用料品	食料品	2.8	4.9	12.2	2.2	22.9	36.5	11.1	0.5	6.0	0.1	0.1	0.8	100.0
	日用品・金物・雑貨類	2.6	4.5	32.5	1.3	14.2	24.2	16.8	0.4	2.6	0.1	0.2	0.6	100.0
衣料・身の回り品	外出着・おしゃれ着	2.2	4.4	22.0	29.1	4.2	6.7	26.4	0.1	0.3	2.1	1.4	1.0	100.0
	肌着・下着類	2.3	4.4	29.2	8.8	9.4	11.0	28.5	0.1	1.0	3.0	1.2	1.1	100.0
	子供服・ベビー服	1.7	5.4	28.9	12.0	4.2	8.4	34.2	0.0	0.3	2.1	2.2	0.7	100.0
	服飾雑貨	2.8	3.9	23.7	18.7	5.1	7.9	32.1	0.1	0.7	2.4	1.9	0.8	100.0
	靴・履物	3.7	5.0	28.4	19.5	4.5	7.4	27.2	0.1	0.4	1.6	1.5	0.8	100.0
	医薬品	7.3	12.5	43.6	0.9	6.1	12.8	12.8	0.4	0.3	0.4	0.3	2.7	100.0
	化粧品	5.0	7.3	27.2	9.8	5.5	8.3	15.7	0.2	2.2	11.1	3.9	3.9	100.0
文化用品	家電製品	3.2	4.8	77.4	0.8	1.6	3.3	5.5	0.0	0.1	0.5	2.4	0.4	100.0
	家具・インテリア	2.5	4.8	64.3	4.8	1.8	4.0	10.5	0.1	0.3	3.3	2.9	0.8	100.0
	本・雑誌、CD、ビデオなど	7.4	12.4	39.0	3.6	4.5	6.4	17.4	2.1	0.2	0.5	5.1	1.4	100.0
	スポーツ・レジャー用品	3.5	6.8	49.0	5.4	2.4	5.3	23.2	0.1	0.3	0.5	2.6	1.0	100.0
贈答品	2.5	5.5	11.8	55.6	2.7	4.5	8.9	0.1	1.0	2.8	3.2	1.3	100.0	

※各品目の有効回答総数

品目	有効回答総数(世帯)	品目	有効回答総数(世帯)
食料品	8,587	医薬品	6,539
日用品・金物・雑貨類	7,903	化粧品	6,120
外出着・おしゃれ着	6,553	家電製品	6,199
肌着・下着類	6,942	家具・インテリア	3,888
子供服・ベビー服	2,677	本・雑誌、CD、ビデオなど	5,826
服飾雑貨	4,744	スポーツ・レジャー用品	3,887
靴・履物	6,093	贈答品	5,143

図4 品目別・市郡別 最近1年間で最もよく買い物した店舗形態

※調査15品目のうち4品目抜粋

① 食料品

(n=8,587世帯(県全体))

店舗形態 世帯主 年齢階級	一商店街 小売店	店の商店街 一般小売外	・大型 販店専門 店等	百貨店	スー パー ・食 品	駅 前 等 の 食 品	品 ス ー パ ー ・ 食 等	国 道 沿 い 等	・グ セ ン タ ー ・ モ ー ル	シ ョ ッ ピ ン	ン ス ト ニ エ	ス 宅 生 協 等 の サ ー ビ	ロ グ 販 売	通 信 ・ カ タ	ツ イ ン タ ー ネ	そ の 他	計
県全体	2.8	4.9	12.2	2.2	22.9	36.5	11.1	0.5	6.0	0.1	0.1	0.8	100.0				
20歳代以下	2.5	3.1	12.5	-	20.6	42.5	13.8	-	4.4	-	-	0.6	100.0				
30歳代	1.5	7.0	10.6	0.7	18.0	42.1	12.9	0.2	6.5	0.2	0.1	0.1	100.0				
40歳代	1.4	4.7	11.7	1.5	19.1	42.0	12.7	0.2	6.0	0.1	0.1	0.5	100.0				
50歳代	1.6	4.2	10.9	2.0	19.8	42.2	12.3	0.3	5.9	-	0.1	0.7	100.0				
60歳代	2.7	4.1	13.7	2.4	25.3	34.9	10.2	0.5	5.6	-	0.0	0.7	100.0				
70歳代以上	5.2	5.6	12.8	3.4	27.6	27.1	8.9	1.1	6.5	0.1	0.1	1.5	100.0				
年齢不明	3.2	3.2	9.7	6.5	16.1	41.9	12.9	-	6.5	-	-	-	100.0				

② 外出着・おし
やれ着

(n=7,903世帯(県全体))

店舗形態 世帯主 年齢階級	一商店街 小売店	店の商店街 一般小売外	・大型 販店専門 店等	百貨店	スー パー ・食 品	駅 前 等 の 食 品	品 ス ー パ ー ・ 食 等	国 道 沿 い 等	・グ セ ン タ ー ・ モ ー ル	シ ョ ッ ピ ン	ン ス ト ニ エ	ス 宅 生 協 等 の サ ー ビ	ロ グ 販 売	通 信 ・ カ タ	ツ イ ン タ ー ネ	そ の 他	計
県全体	2.2	4.4	22.0	29.1	4.2	6.7	26.4	0.1	0.3	2.1	1.4	1.0	100.0				
20歳代以下	3.0	4.5	21.1	13.5	1.5	3.8	45.1	-	-	2.3	3.8	1.5	100.0				
30歳代	0.8	5.8	20.4	13.1	1.5	5.4	44.2	-	-	3.5	4.6	0.5	100.0				
40歳代	1.4	4.6	22.4	15.2	4.3	6.5	39.8	-	0.4	2.0	2.4	0.8	100.0				
50歳代	1.7	4.1	23.8	27.9	4.1	7.7	25.9	0.1	0.3	2.4	0.6	1.4	100.0				
60歳代	2.6	3.3	22.9	38.1	5.1	6.4	17.7	0.1	0.3	1.8	0.3	1.3	100.0				
70歳代以上	3.7	4.9	19.8	42.7	5.0	7.3	13.2	0.2	0.5	1.4	0.5	0.8	100.0				
年齢不明	4.0	4.0	20.0	32.0	-	4.0	28.0	-	-	4.0	4.0	-	100.0				

③ 医薬品

(n=6,539世帯(県全体))

店舗形態 世帯主 年齢階級	一商店街 小売店	店の商店街 一般小売外	・大型 販店専門 店等	百貨店	スー パー ・食 品	駅 前 等 の 食 品	品 ス ー パ ー ・ 食 等	国 道 沿 い 等	・グ セ ン タ ー ・ モ ー ル	シ ョ ッ ピ ン	ン ス ト ニ エ	ス 宅 生 協 等 の サ ー ビ	ロ グ 販 売	通 信 ・ カ タ	ツ イ ン タ ー ネ	そ の 他	計
県全体	7.3	12.5	43.6	0.9	6.1	12.8	12.8	0.4	0.3	0.4	0.3	2.7	100.0				
20歳代以下	6.8	13.7	38.5	1.7	4.3	18.8	12.0	-	-	-	-	4.3	100.0				
30歳代	2.5	17.9	45.9	0.6	4.2	12.3	13.8	-	0.1	0.4	0.4	2.0	100.0				
40歳代	3.9	12.1	45.0	0.9	5.9	13.5	14.8	0.1	0.4	0.3	0.4	2.7	100.0				
50歳代	5.5	10.5	46.0	0.4	5.1	14.4	14.4	0.2	-	0.4	0.3	2.7	100.0				
60歳代	7.8	11.4	44.9	0.7	6.7	12.0	12.2	0.3	0.4	0.5	0.2	2.8	100.0				
70歳代以上	14.7	13.0	37.2	1.5	7.8	11.2	9.4	1.0	0.5	0.6	0.2	2.9	100.0				
年齢不明	7.1	3.6	39.3	3.6	-	21.4	17.9	-	-	-	-	7.1	100.0				

④ 贈答品

(n=5,370世帯(県全体))

店舗形態 世帯主 年齢階級	一商店街 小売店	店の商店街 一般小売外	・大型 販店専門 店等	百貨店	スー パー ・食 品	駅 前 等 の 食 品	品 ス ー パ ー ・ 食 等	国 道 沿 い 等	・グ セ ン タ ー ・ モ ー ル	シ ョ ッ ピ ン	ン ス ト ニ エ	ス 宅 生 協 等 の サ ー ビ	ロ グ 販 売	通 信 ・ カ タ	ツ イ ン タ ー ネ	そ の 他	計
県全体	2.5	5.5	11.8	55.6	2.7	4.5	8.9	0.1	1.0	2.8	3.2	1.3	100.0				
20歳代以下	4.5	6.0	16.4	26.9	1.5	4.5	19.4	-	-	3.0	14.9	3.0	100.0				
30歳代	1.3	7.5	11.6	41.7	1.8	4.1	16.2	0.2	0.3	5.1	8.7	1.5	100.0				
40歳代	1.5	6.2	10.6	49.6	2.9	5.0	12.8	0.2	1.4	3.5	5.1	1.2	100.0				
50歳代	2.7	5.7	12.2	56.2	2.4	5.3	7.5	-	0.9	2.9	3.1	1.1	100.0				
60歳代	2.6	4.6	11.7	61.6	3.1	3.4	6.3	0.1	1.1	2.7	1.2	1.5	100.0				
70歳代以上	3.4	4.9	12.2	61.5	2.9	4.7	6.0	0.1	1.3	1.2	0.6	1.3	100.0				
年齢不明	5.6	5.6	16.7	44.4	-	11.1	11.1	-	-	-	5.6	-	100.0				

2 家計

① 支出、収入、貯蓄、借入の状況

■ 1月当たりの家計支出は、全体で平均21.7万円、年間収入は平均523万円。

3世代世帯では支出・収入ともに世帯類型中最も多く、高齢者単独世帯では支出・収入ともに最も少ない。

■ 貯蓄は全体で平均911万円、うち貯蓄のない割合は2割弱(15.8%)。借入は平均524万円、うち借入のない割合は約6割(58.7%)。

貯蓄は、高齢夫婦世帯が最も多く(1,227万円)、1人親と19歳以下の子の世帯が最も少ない(186万円)。

借入は、夫婦と子の世帯が最も多く(845万円)、高齢者単独世帯が最も少ない(33万円)。

■ 全般的にみると、高齢夫婦世帯は収入が比較的少ないものの、貯蓄が多く借入が少ない状況。高齢者単独世帯は支出・収入・借入ともに少ない状況。

一方、1人親と19歳以下の子の世帯は、収入・貯蓄ともに低く、苦しい家計状況がうかがえる。

図1 世帯類型別 1月当たり平均家計支出と年間収入の平均額 (支出n=8,551世帯、収入n=8,308世帯)

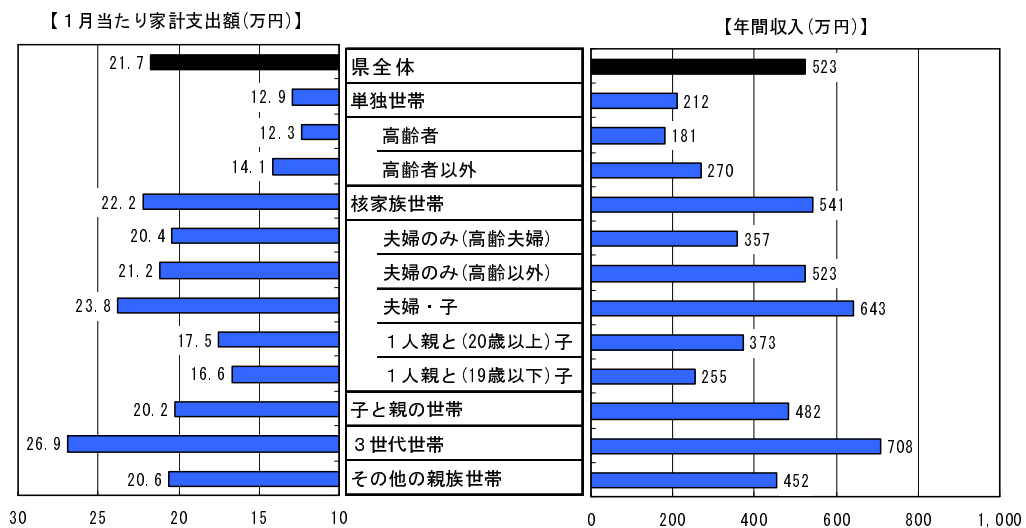
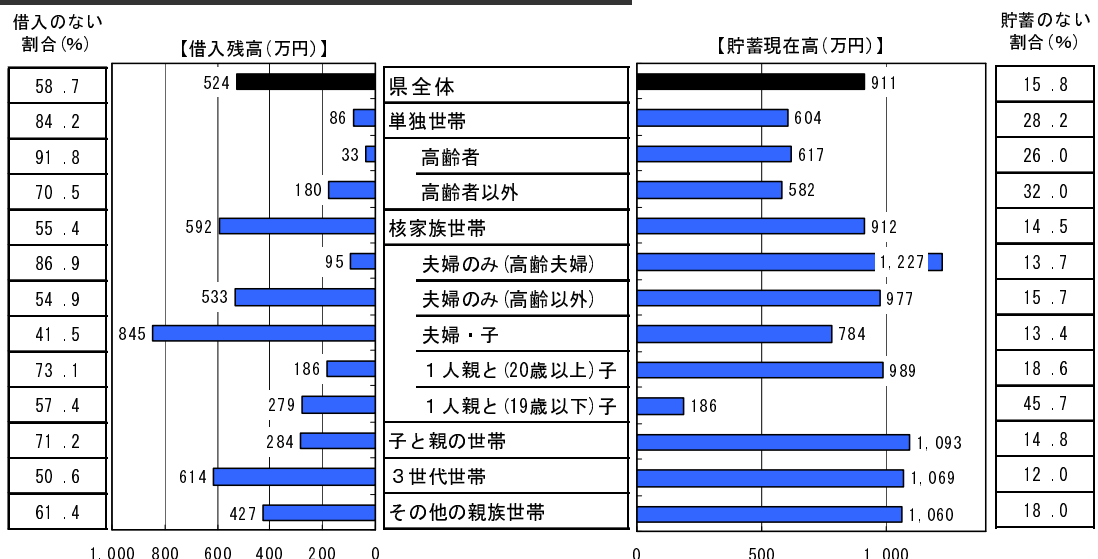


図2 世帯類型別 貯蓄現在高と借入残高の平均額 (貯蓄n=7,957世帯、収入n=8,014世帯)



② この1年間の家計に対する実感

■この1年間の家計に対する実感は、「大変～ややゆとりがあった」世帯が全体の約1割(8.3%)、「普通」は約4割(38.5%)で、残りの約5割(47.5%)が「大変～やや苦しかった」と回答。

■高齢夫婦世帯や高齢者単独世帯などでは「大変～やや苦しかった」割合が県平均を下回った一方で、1人親と19歳以上の子の世帯では、「大変～やや苦しかった」割合が7割(70.6%)を占め、なかでも4割(41.2%)の世帯が「大変苦しかった」と回答し、苦しい家計の状況を如実に反映する結果。

図1 この1年間の家計に対する実感【県全体】

(n=9,127世帯)

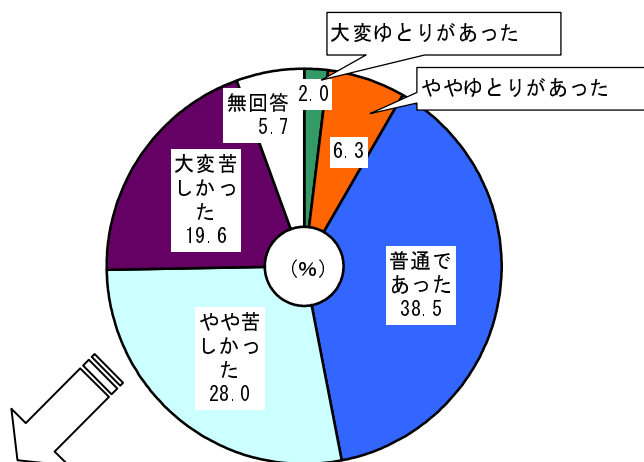
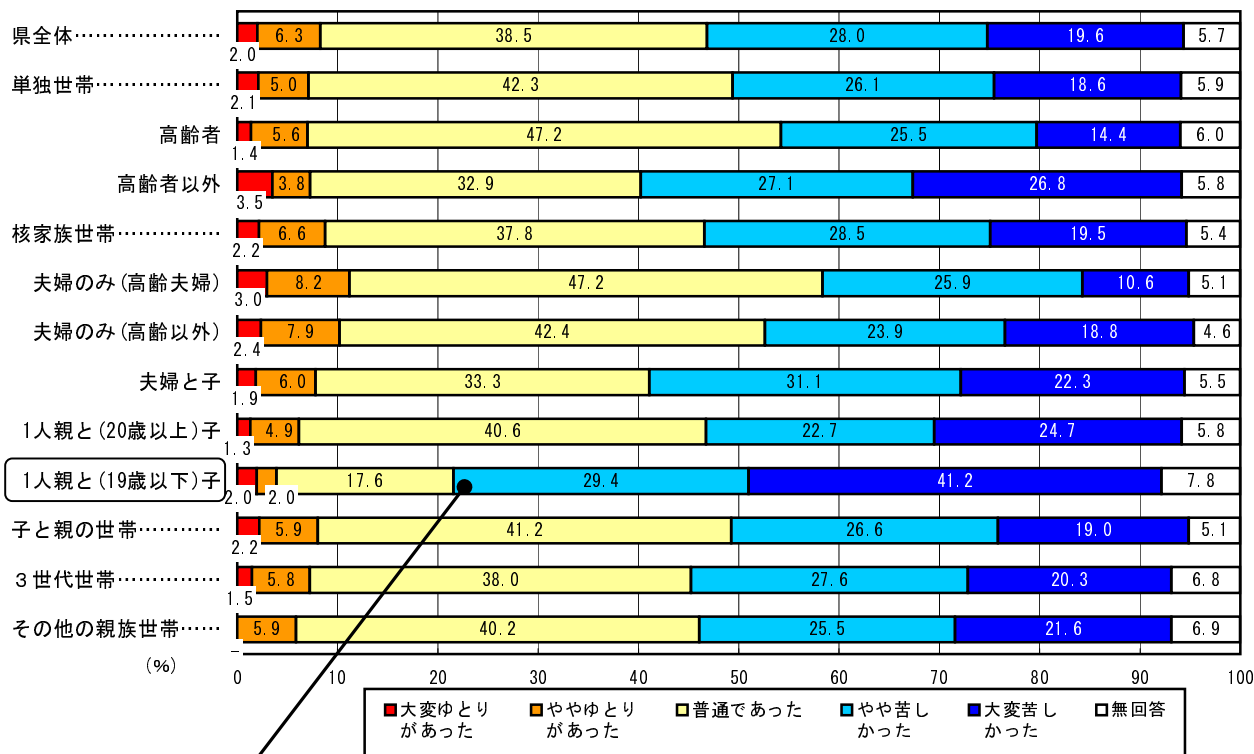


図1-2 世帯類型別

(n=9,127世帯)



1人親と19歳以下の子の世帯
「大変苦しかった」41.2%、「やや苦しかった」29.4%
あわせて7割(70.6%)が苦しかったと回答

家計全般の状況を如実に反映

3 つながり

① 家族一緒に過ごす機会の状況

調査対象：2人以上の世帯

- 家族一緒に過ごす機会が「十分～まあまあ」取れた割合は、全体で8割弱(76.7%)。
- 夫婦のみの世帯では、高齢夫婦、高齢以外ともに「十分～まあまあ」取れた割合が8割超と高い一方、1人親と子の世帯は7割を下回る。
- 家族一緒に過ごす機会が取れなかった理由で最も多かったのは「仕事が忙しかった」(64.0%)。一方、「各自の時間を尊重」(22.4%)や「各自の趣味やつきあいで忙しかった」(19.1%)も各2割程度あり、個人の時間を尊重する傾向も。

・家族一緒に過ごす機会は、夫婦のみの世帯がよく取れており、高齢夫婦、高齢夫婦以外ともに「十分～まあまあ」取れた割合は8割超(高齢84.7%、高齢以外81.7%)。

一方、1人親と子の世帯は7割を下回り(1人親と19歳以下の子66.7%、1人親と20歳以上の子67.5%)、3世代世帯(74.2%)も県平均を下回る。

・家族一緒に過ごす機会が取れなかった理由は、1人親と19歳以下の子の世帯では「仕事が忙しかった」(86.7%)、「受験、塾などで忙しかった」(40.0%)が多い。一方、3世代世帯や1人親と20歳以上の子の世帯では「各自の時間を尊重」や「各自の趣味やつきあいで忙しかった」が各2～4割程度あり、個人の時間を尊重する傾向がうかがえる。

図1 世帯類型別 家族一緒に過ごす機会の取得状況 (n=8,129世帯)

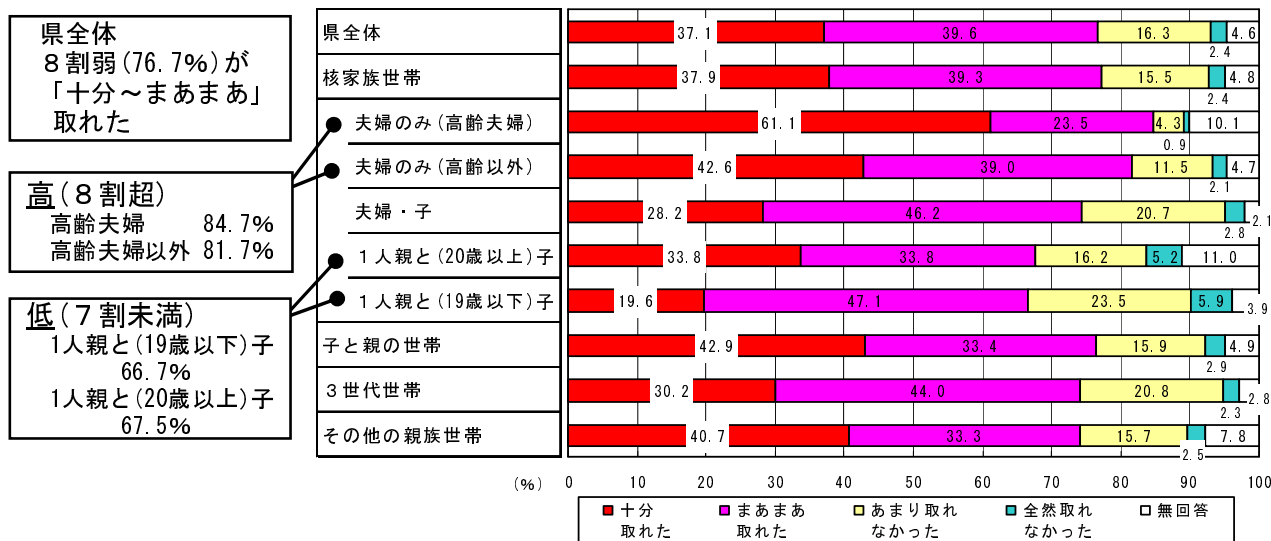
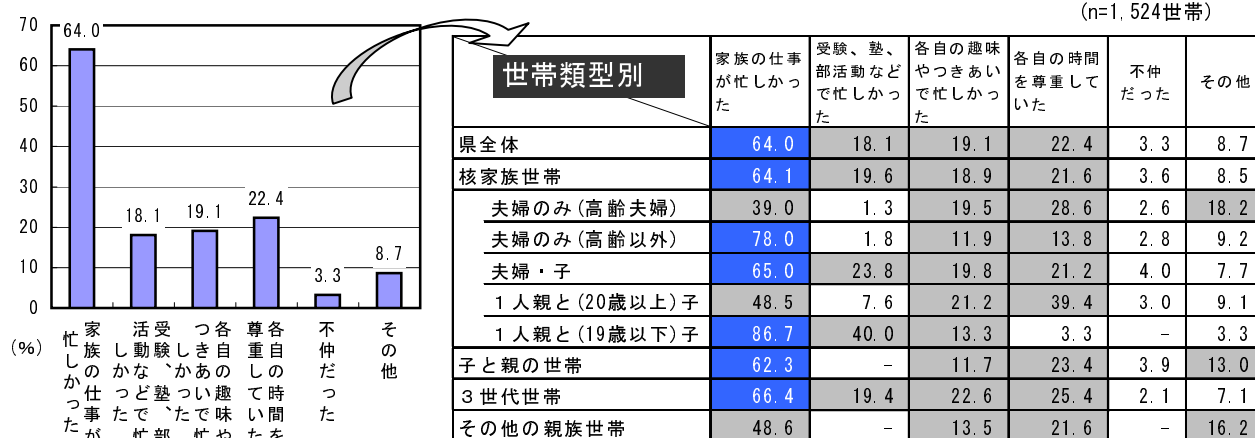


図2 家族一緒に過ごす機会があまり(又は全然)取れなかった理由(複数回答)



② 親戚づきあい、近所づきあいの状況

■別居の親戚とのつきあいの程度は、県全体では7割弱(68.7%)の世帯が「家事、育児などで行き来する親戚がいる」(43.4%)か「心配事を相談しあう親戚がいる」(25.3%)。

■単独世帯(高齢者、高齢者以外とも)や1人親と20歳以上の子の世帯では、「家事、育児などで行き来」したり「心配事を相談」しあう親戚がいる割合が5割程度と県平均を下回る。

■近所づきあいの程度は、県全体では6割程度(58.6%)の世帯が「生活面で協力しあっている人がある」(23.2%)か「日常的に立ち話をする人がある」(35.5%)。

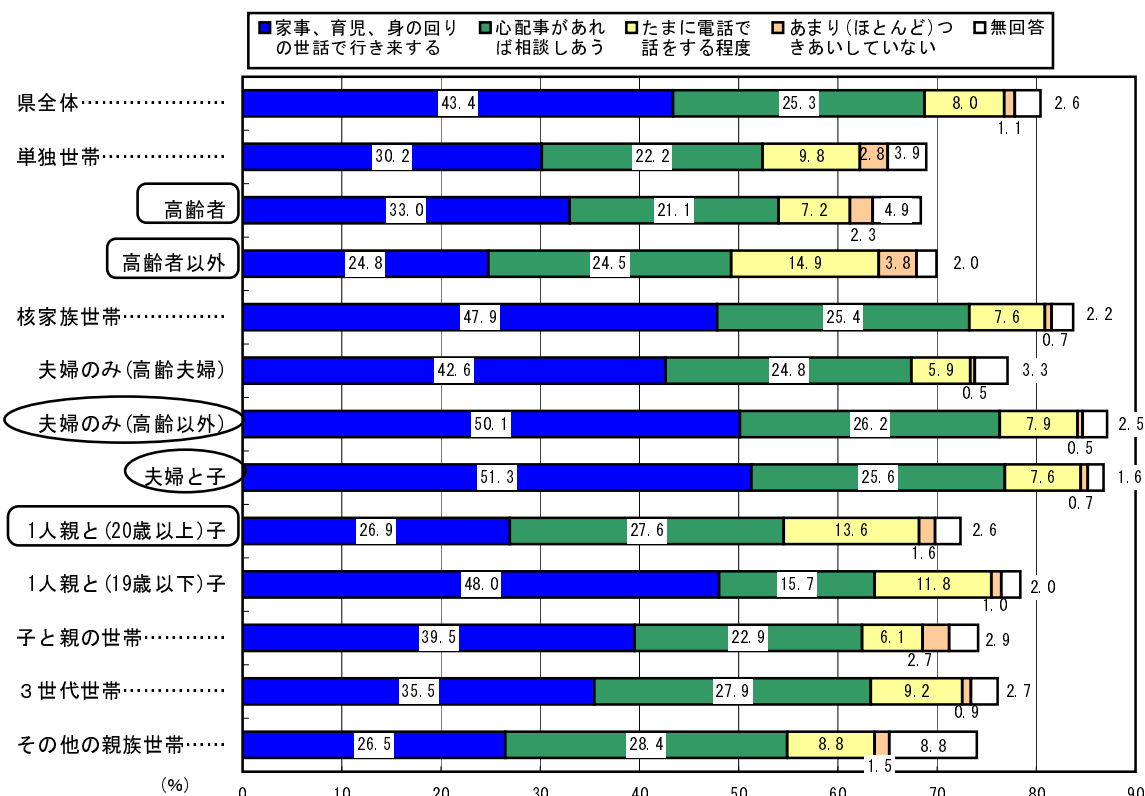
■3世代世帯や高齢夫婦世帯では、近所づきあいの程度は全体平均を上回る一方、高齢以外の単独世帯、1人親と19歳以下の子の世帯などでは下回る。

■年代別にみると、世帯主が高年代の世帯ほど近所づきあいの程度は高くなる傾向。一方で、世帯主が20歳代以下の世帯では、「生活面な協力～日常的な立ち話」をする割合は3割未満(26.9%)と極めて低い。

(1) 親戚づきあいの状況

図1 世帯類型別 別居の親戚とのつきあいの程度のうち、最も高い程度 (n=9,127世帯)

【県全体】	高
①家事、育児などで行き来する親戚がいる割合 43.4%	高齢以外夫婦世帯 76.3%
②心配事があれば相談しあう親戚がいる割合 25.3%	夫婦と子の世帯 76.9%
計 (①+②) 7割弱(68.7%)	低
	高齢単独世帯 54.0%
	高齢以外の単独世帯 49.3%
	1人親と20歳以上の子の世帯 54.5%



(2) 近所づきあいの状況

図2 世帯類型別 日頃の近所づきあいの程度の状況 (n=9,127世帯)

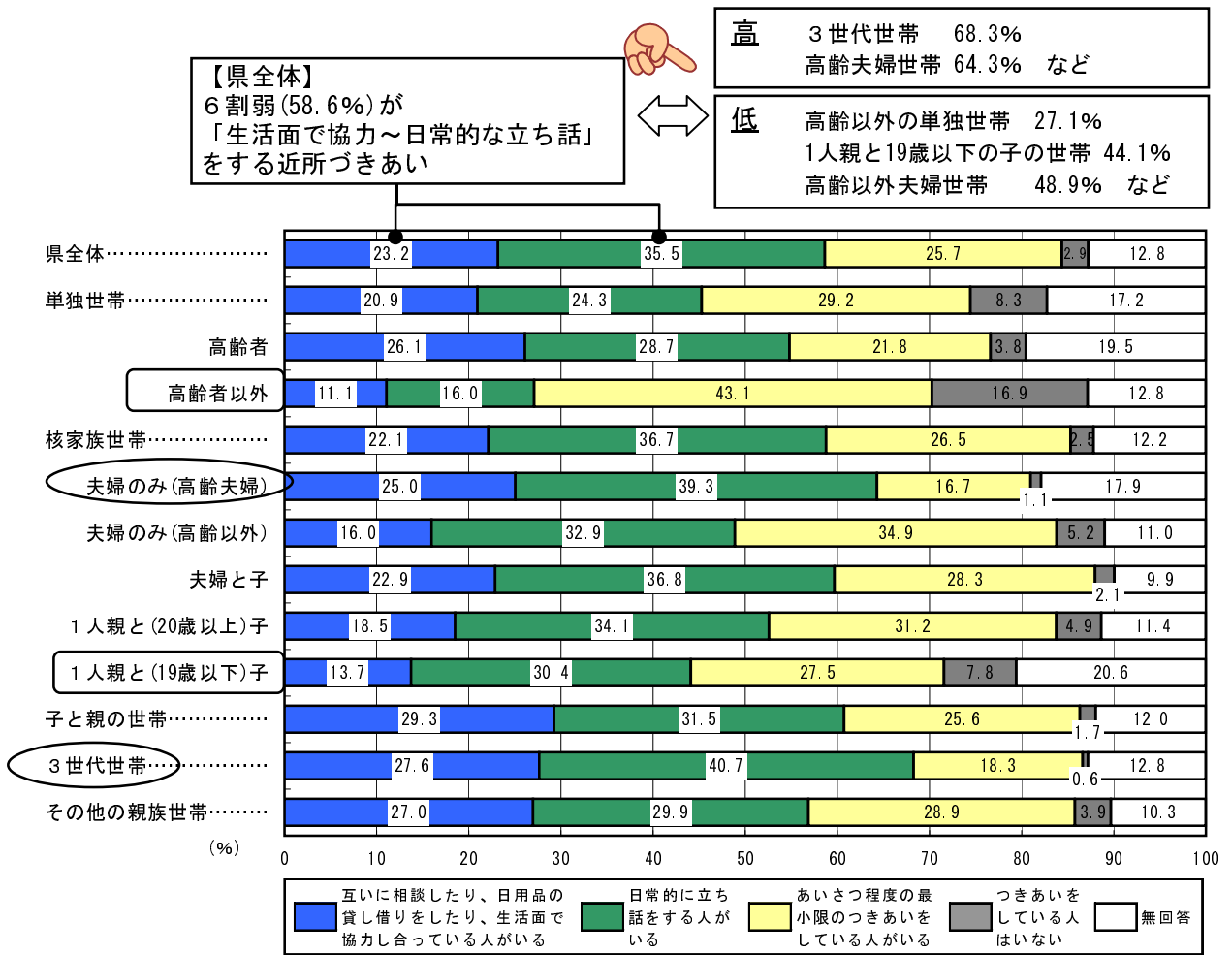
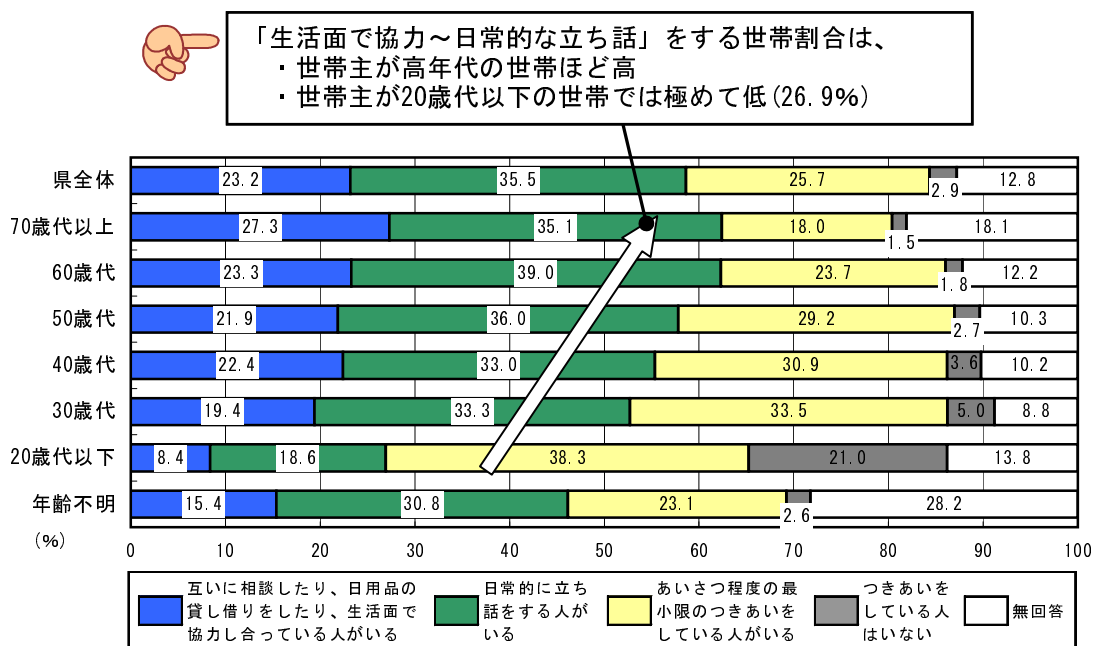


図3 世帯主の年代別 日頃の近所づきあいの程度の状況 (n=9,127世帯)



③ 地域団体加入の状況

■ 町内会・自治会など何らかの地域団体に加入している世帯割合は、県全体で9割(90.2%)。

■ 3世代世帯(95.2%)、高齢夫婦世帯(93.8%)などでは加入割合が高いが、高齢以外の単独世帯(64.4%)、1人親と19歳以下の子の世帯(74.5%)では極めて低い。

■ 市郡別では、宇陀市(98.6%)、高市郡(97.7%)、吉野郡(96.2%)が上位3市郡。

図1 地域団体への加入状況 (n=9,127世帯)

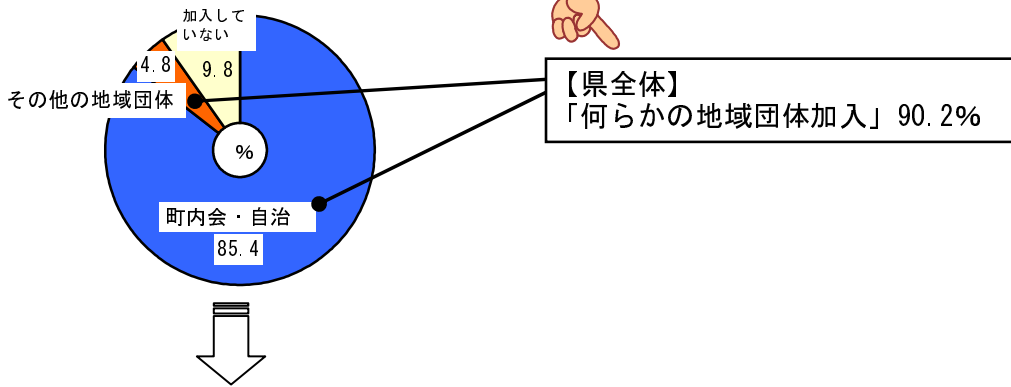


図2 世帯類型別 何らかの地域団体に加入している世帯の割合 (n=9,127世帯)

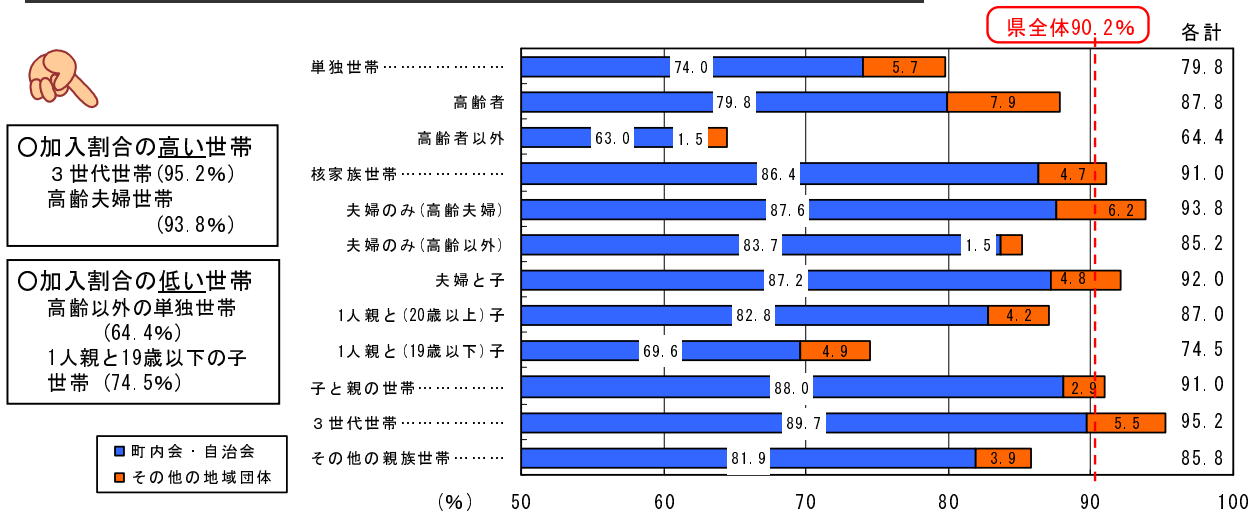
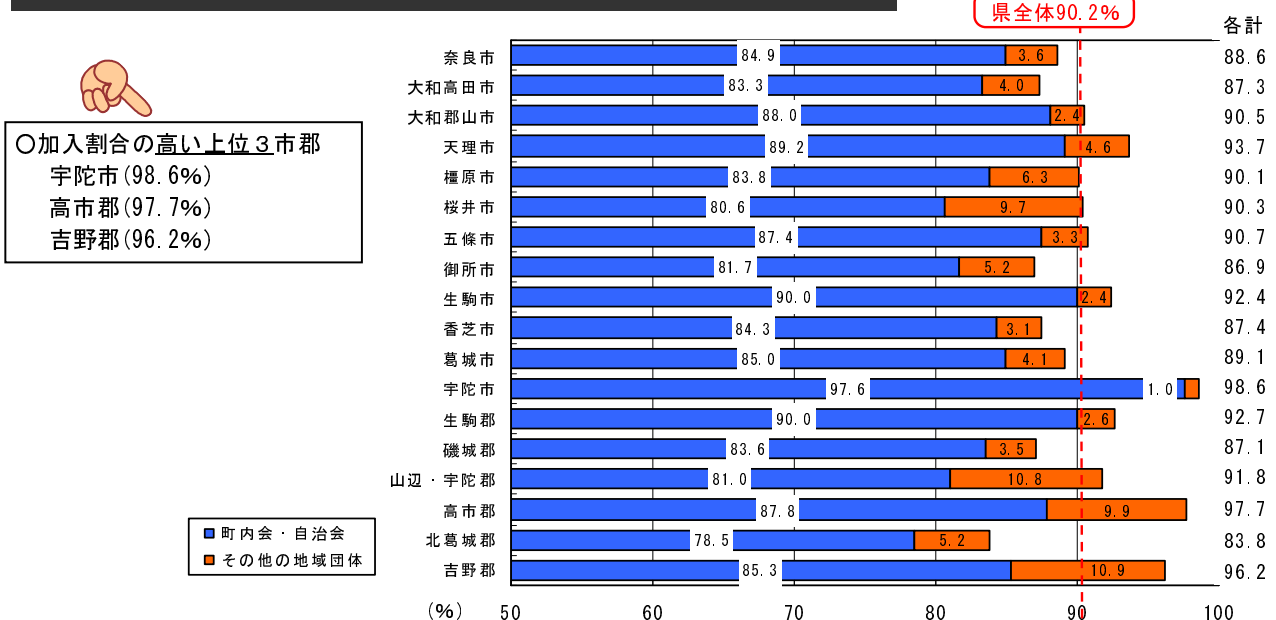


図3 市郡別 何らかの地域団体に加入している世帯の割合 (n=9,127世帯)



④ 県外からの転入世帯の状況

■世帯主が県外からの転入者である割合は、県全体で46.6%。そのうち過半(52.9%)が、既に25年以上奈良県に定着。

■世帯主が奈良県を転居地に決めた理由は、「住宅の周辺環境(静かさ・景観・治安など)が良い」(30.6%)が最も多く、次いで「土地や住宅価格、家賃が適当」(23.8%)、「勤務先・通学先が近い」(22.3%)、「交通の便が良い、都心部へ行くのに便利」(21.1%)の順。

■県内居住年数が長い世帯ほど、近所づきあいの程度、地域団体への加入率とも高くなり、着実な地域への定着がうかがえる。

(1) 世帯主が県外からの転入者である割合と奈良県への定着状況

図1 世帯主の奈良県での居住状況 (n=9,127人)

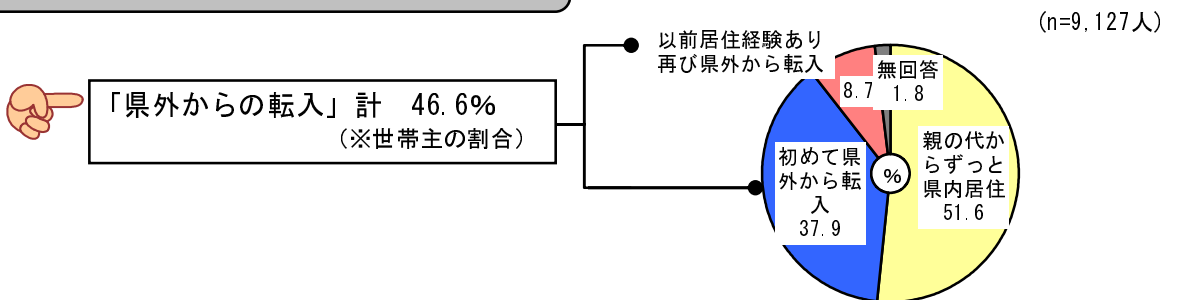
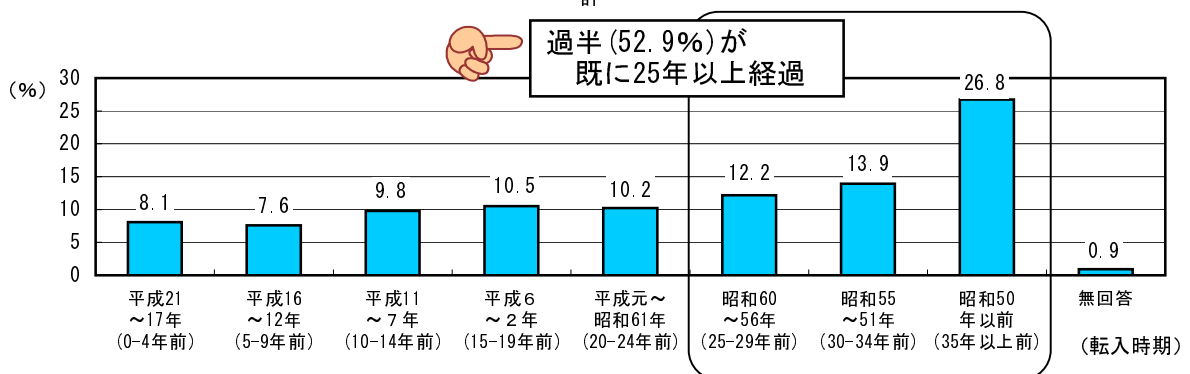
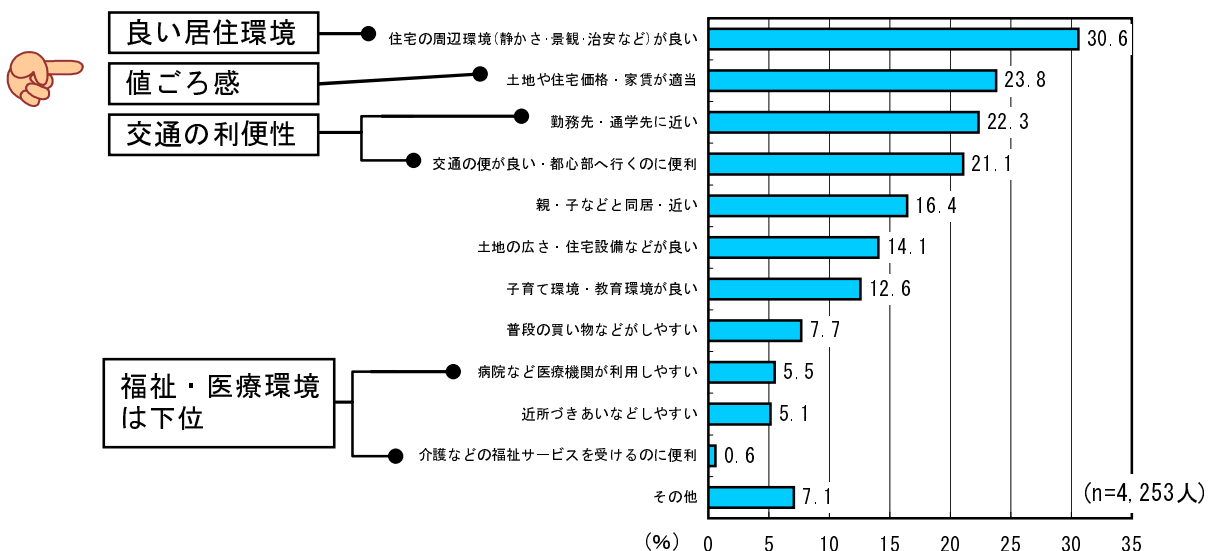


図2 県外からの転入者である世帯主の、奈良県への転入時期 (n=4,253人)



(2) 奈良県を転居地に決めた理由

図3 県外からの転入者である世帯主の、転居地を奈良県に決めた理由(複数回答) (n=4,253人)



(3) 地域への定着状況

図4 世帯主が県外からの転入者である世帯の、日頃の近所づきあいの程度の状況

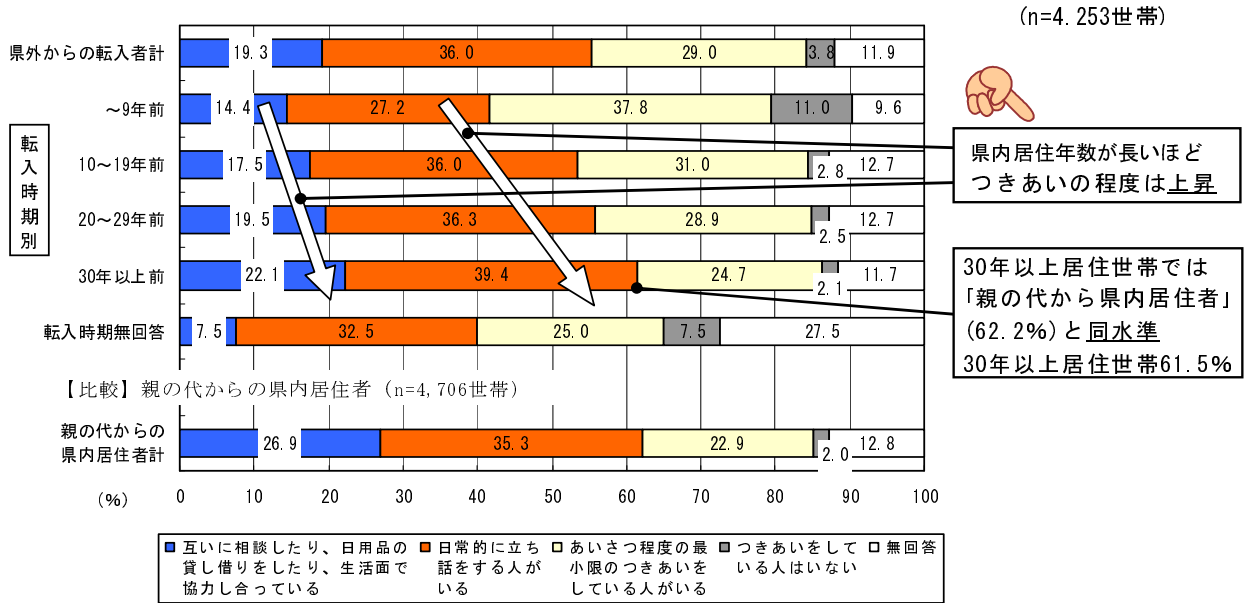
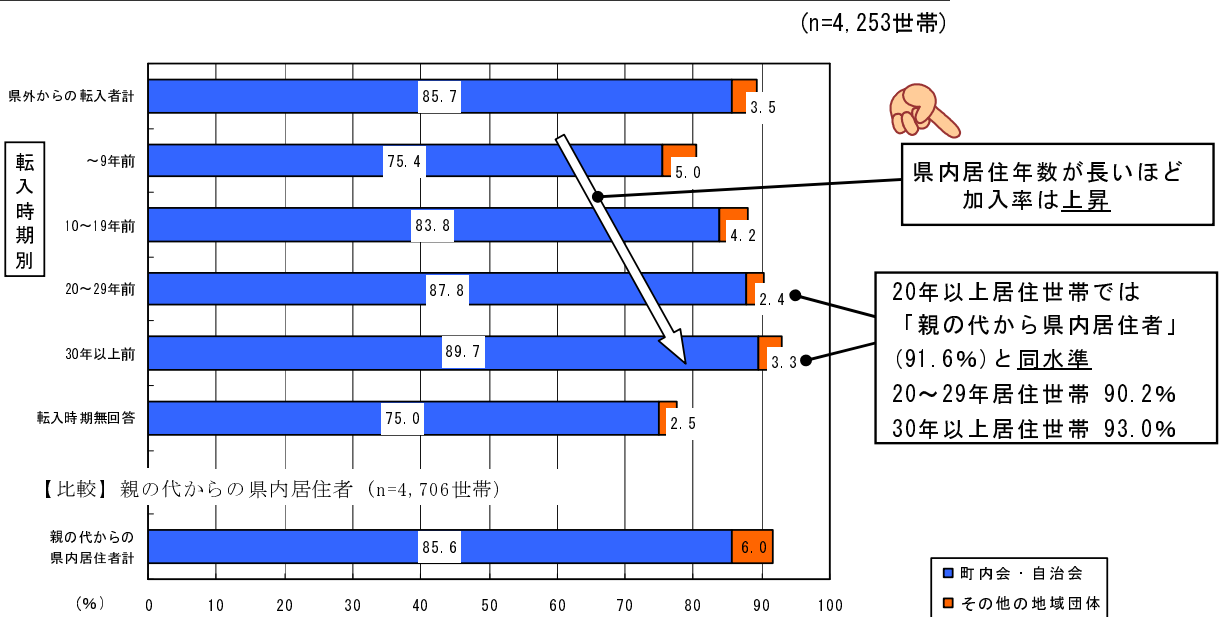


図5 世帯主が県外からの転入者である世帯の、地域団体への加入率



4 ライフステージ別の状況

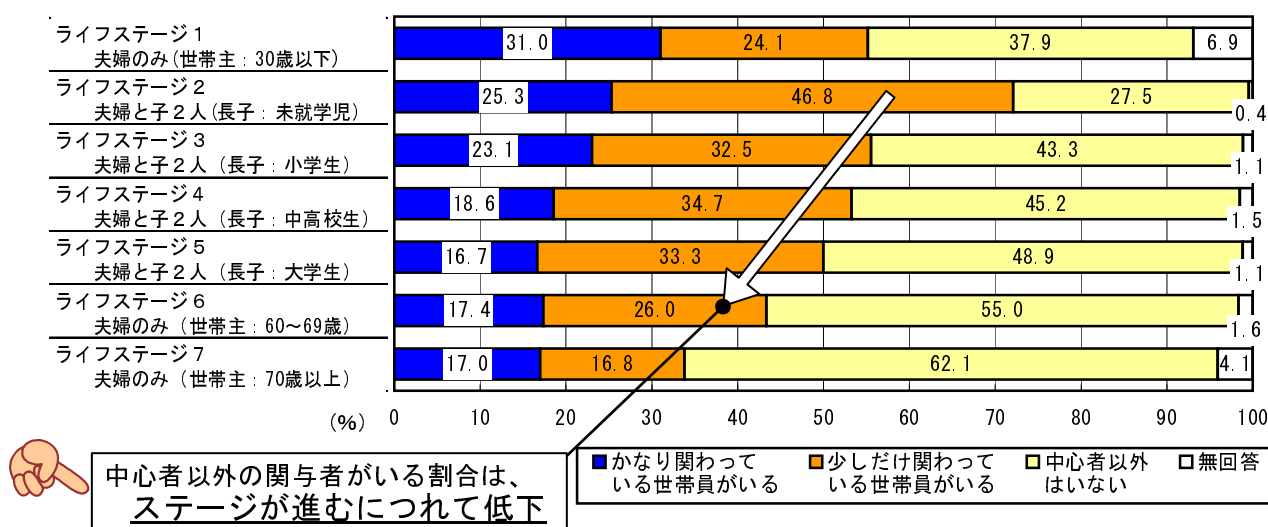
※調査対象世帯のうち、夫婦のみの世帯からは世帯主の年齢がそれぞれ30歳以下、60～69歳、70歳以上の世帯と、夫婦と子2人の世帯からは長子がそれぞれ未就学児、小学生、中学生、大学生の世帯を抽出し、「ライフステージ別」に世帯のくらしの状況を特別集計

	対象世帯	該当世帯数
ライフステージ1	夫婦のみ(世帯主30歳以下)	29世帯
ライフステージ2	夫婦と子2人(長子:未就学児)	233世帯
ライフステージ3	夫婦と子2人(長子:小学生)	360世帯
ライフステージ4	夫婦と子2人(長子:中学生)	334世帯
ライフステージ5	夫婦と子2人(長子:大学生)	174世帯
ライフステージ6	夫婦のみ(世帯主60～69歳)	851世帯
ライフステージ7	夫婦のみ(世帯主70歳以上)	1,011世帯

① 生活行動 ～ 家事、配偶者の就業 ～

■家事を中心になって行っているのは、各ライフステージとも配偶者（9割前後）。中心者以外に家事に関わっている世帯員の割合は、子の成長に伴い低下の傾向で、ステージ2（長子未就学）が最も高く（72.1%）、以降低下。

図1 ライフステージ別 中心者以外に家事に関わっている世帯員の有無



【参考】中心となって家事をしている世帯員

	(%)	世帯主	配偶者	無回答	計
ライフステージ1 夫婦のみ(世帯主:30歳以下)	6.9	86.2	6.9	100.0	
ライフステージ2 夫婦と子2人(長子:未就学児)	1.3	98.3	0.4	100.0	
ライフステージ3 夫婦と子2人(長子:小学生)	3.1	95.8	1.1	100.0	
ライフステージ4 夫婦と子2人(長子:中高生)	1.5	97.0	1.5	100.0	
ライフステージ5 夫婦と子2人(長子:大学生)	2.9	96.0	1.1	100.0	
ライフステージ6 夫婦のみ(世帯主:60～69歳)	3.4	94.9	1.6	100.0	
ライフステージ7 夫婦のみ(世帯主:70歳以上)	6.0	89.9	4.1	100.0	

- 配偶者が働いている割合は、子の成長に伴い高くなる傾向で、ステージ2（長子未就学）から5（長子大学生）と進むにつれ上昇し、以降は高齢に伴い低下。
- 配偶者の就業形態は、ステージ1（若年夫婦のみ）では正職員・社員が6割弱（56.3%）と高いが、ステージが進むにつれ低下し、パート・アルバイトが高くなる傾向。

図2 ライフステージ別 配偶者の就業有無

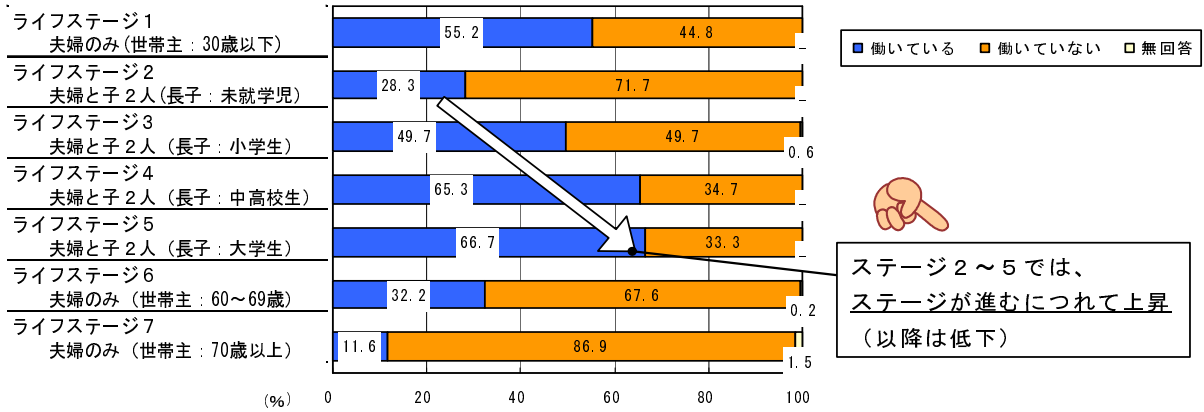


図3 ライフステージ別 働いている配偶者の就業形態

(%)	正規職員・社員	契約・派遣社員	パート・アルバイト	家族従業者	内職	役員・事業主	無回答	計
ライフステージ1 夫婦のみ(世帯主: 30歳以下)	56.3	6.3	31.3	-	-	-	6.3	100.0
ライフステージ2 夫婦と子2人(長子: 未就学児)	34.8	1.5	42.4	7.6	6.1	6.1	1.5	100.0
ライフステージ3 夫婦と子2人(長子: 小学生)	18.4	2.2	58.1	8.4	8.4	3.4	1.1	100.0
ライフステージ4 夫婦と子2人(長子: 中高校生)	11.5	3.2	73.9	4.6	4.6	2.3	-	100.0
ライフステージ5 夫婦と子2人(長子: 大学生)	18.1	1.7	65.5	6.0	1.7	6.0	0.9	100.0
ライフステージ6 夫婦のみ(世帯主: 60~69歳)	9.1	2.6	44.2	23.7	5.5	8.0	6.9	100.0
ライフステージ7 夫婦のみ(世帯主: 70歳以上)	6.0	0.9	17.1	35.9	1.7	18.8	19.7	100.0

② 家計

- 1月当たり家計支出額は、子の成長に伴い増加。ステージ5（長子大学生）が平均32.3万円と最も多く、以降は減少。食料費と教育・保育費の増こうがその要因とかがえる。
- 年間収入も、子の成長に伴い増加。ステージ5が平均870万円と最も多いが、これには配偶者の就業収入も寄与（ステージ5では7割弱（66.7%）の配偶者が就業）。

図1 ライフステージ別 1月当たり家計支出額と年間収入の平均額

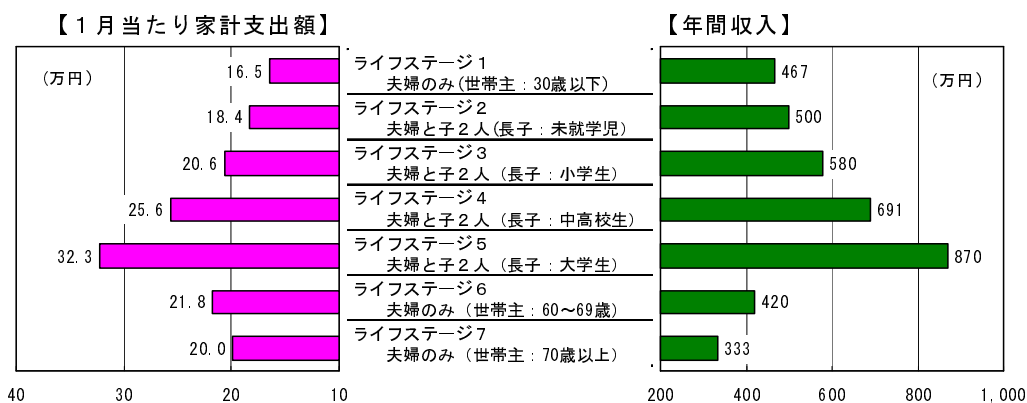
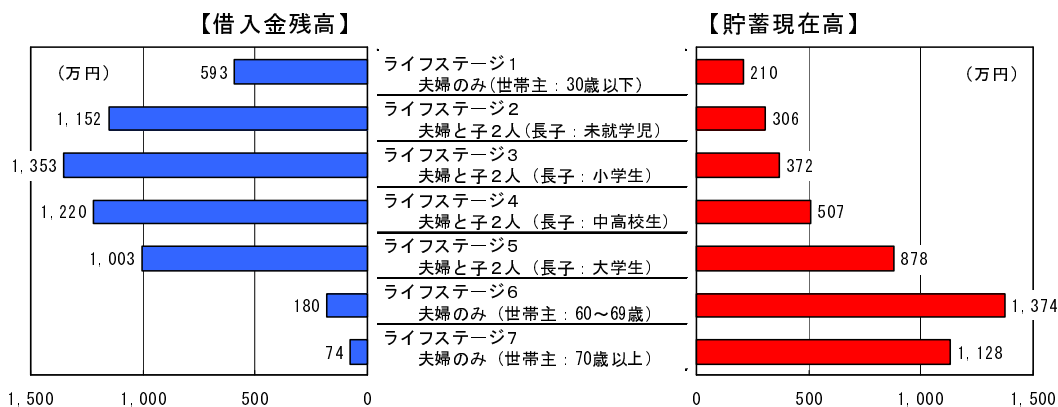


図2 ライフステージ別 主な費用別 1月当たり支出額の平均額

(万円)	食料費 (外食費除)	外食費	教育・ 保育費	保健・ 医療費	宿泊・ 旅行費	交際費
ライフステージ1 夫婦のみ(世帯主:30歳以下)	3.7	1.1	0.1	1.1	1.0	1.4
ライフステージ2 夫婦と子2人(長子:未就学児)	4.3	1.1	2.6	1.4	1.0	1.2
ライフステージ3 夫婦と子2人(長子:小学生)	5.3	1.3	4.0	1.1	1.8	1.2
ライフステージ4 夫婦と子2人(長子:中高校生)	6.8	1.3	6.5	1.2	1.4	1.3
ライフステージ5 夫婦と子2人(長子:大学生)	8.4	1.6	15.3	1.1	1.7	1.6
ライフステージ6 夫婦のみ(世帯主:60~69歳)	7.3	1.5	0.1	1.9	2.3	2.1
ライフステージ7 夫婦のみ(世帯主:70歳以上)	7.6	1.2	0.1	2.3	1.5	2.1

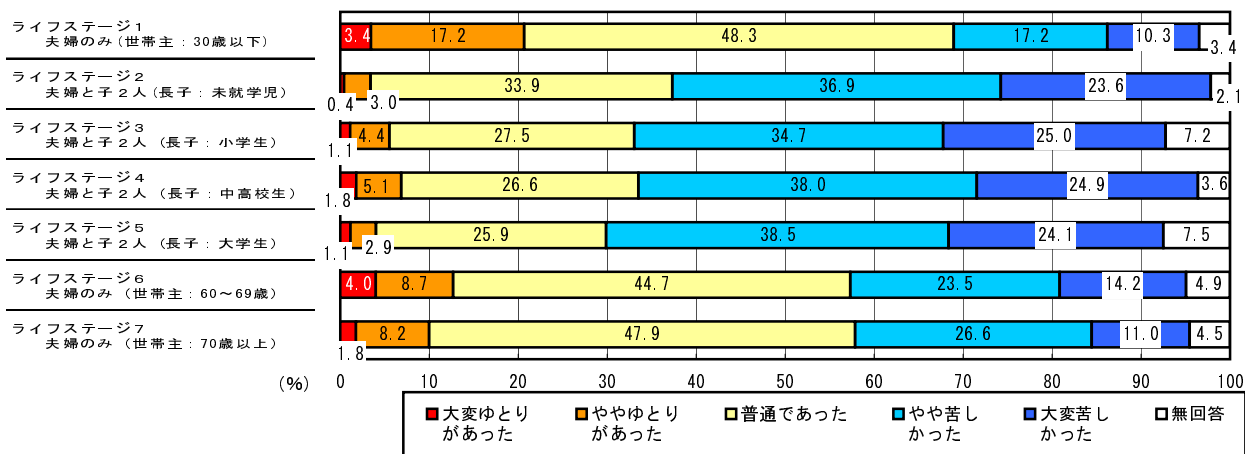
■貯蓄と借入の状況では、貯蓄はステージが進むにつれ増加の傾向であるものの、借入はステージ3(長子小学生)で平均1,353万円と最も多いほか、子が就学中のステージすべてで平均1千万円以上。その主な理由は「住宅土地購入用」で8割超。

図3 ライフステージ別 貯蓄現在高・借入金残高の平均額



■この1年間の家計に対する実感として、「大変~ややゆとりがあった」と「普通であった」と答えた割合は、夫婦のみの各ステージでは6~7割程度だが、子が就業中の各ステージでは4割弱にとどまり、子の就業中の各ステージにおける家計状況を如実に反映する結果。

図4 ライフステージ別 この1年間の家計に対する実感



③ つながり ～ 家族一緒に過ごす機会、親戚・近所づきあい など ～

- 家族一緒に過ごす機会は、子の成長に伴い取れなくなる傾向で、ステージ1（若年夫婦のみ）から5（長子大学生）と進むにつれ低下。機会の取れない主な理由は「仕事」と「勉強」。
- 別居の親戚とのつきあいの程度は、ステージ5（長子大学生）までは8割超であるが、ステージ6、7（夫婦のみで世帯主年齢60歳以上）では低下の傾向。
- 近所づきあいの程度は、ステージ1（若年夫婦のみ）では低いものの、以降は各ステージとも「生活面で協力しあう」（2～3割）、「日常的に立ち話する」（3～4割）と高い。
- また、地域団体への加入状況を見ても、ステージ1では5割程度（55.1%）と低いが、以降は各ステージとも8割超の加入割合。

(1) 家族一緒に過ごす機会の状況

図1 ライフステージ別 家族一緒に過ごす機会の取得状況

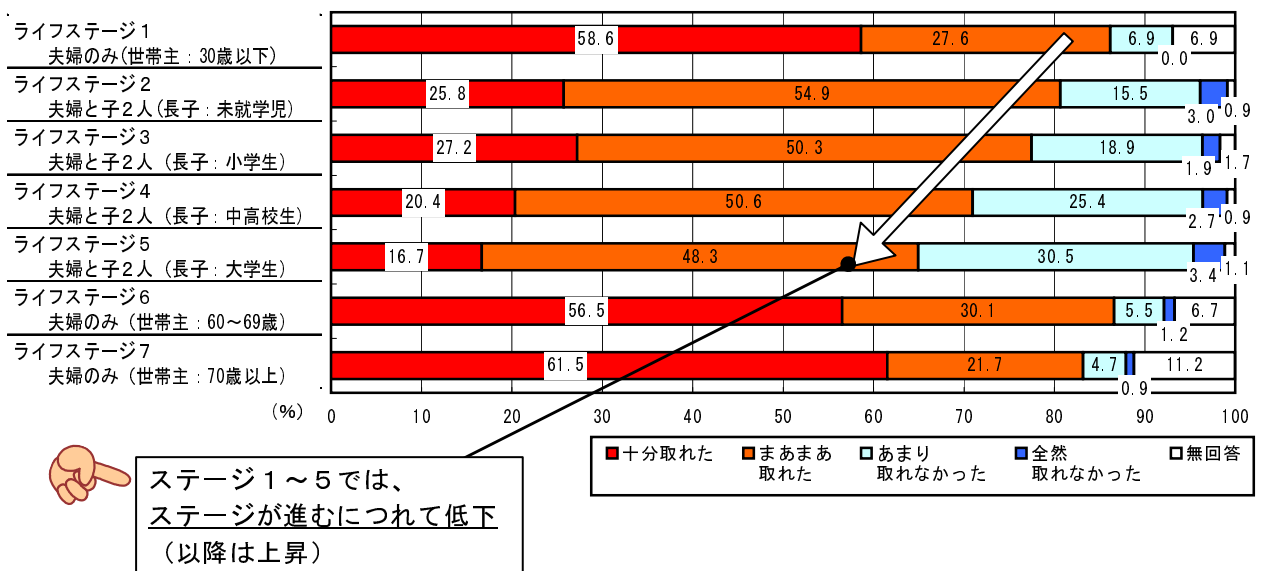


図2 ライフステージ別 家族一緒に過ごす機会があまり(又は全然)取れなかった理由（複数回答）

(%)	世帯主など家族の仕事が忙しかった	受験、塾、部活動などで忙しかった	各自の趣味やつきあいで忙しかった	各自の時間を尊重していた	不仲だった	その他
ライフステージ1 夫婦のみ(世帯主: 30歳以下)	100.0	-	-	-	-	-
ライフステージ2 夫婦と子2人(長子: 未就学児)	83.7	-	11.6	2.3	4.7	11.6
ライフステージ3 夫婦と子2人(長子: 小学生)	81.3	13.3	5.3	4.0	-	12.0
ライフステージ4 夫婦と子2人(長子: 中高生)	66.0	69.1	14.9	9.6	3.2	7.4
ライフステージ5 夫婦と子2人(長子: 大学生)	52.5	50.8	27.1	25.4	6.8	6.8
ライフステージ6 夫婦のみ(世帯主: 60～69歳)	70.2	1.8	15.8	15.8	1.8	8.8
ライフステージ7 夫婦のみ(世帯主: 70歳以上)	28.1	1.8	17.5	31.6	5.3	24.6

(2) 別居の親戚や近所とのつきあい、地域との関わりの状況

図3 ライフステージ別 別居の親戚とのつきあいの程度のうち、最も高い程度

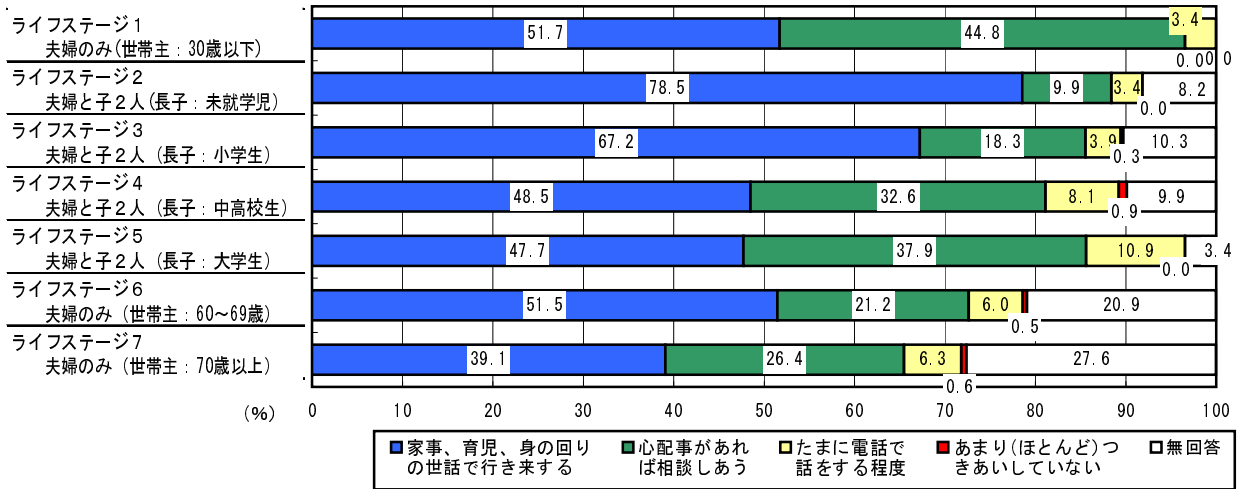


図4 ライフステージ別 日頃の近所づきあいの程度の状況

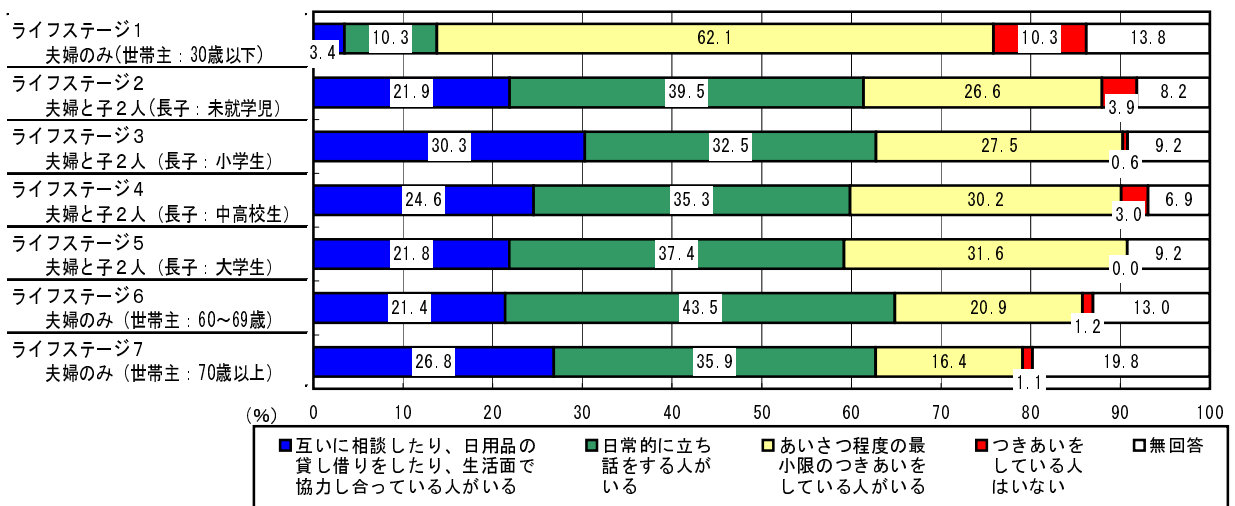


図5 ライフステージ別 地域団体に加入している世帯の割合

